



地域カルテ

01 現状把握

02 問題の洗い出し

03 課題（やるべきこと）の抽出

本書は、自分たちの住むあるいは事業を営む地域が、今どんな状況なのか、健康状態の記録（カルテ）に例え、作成・更新し、その時の地域の強みや弱みを把握・共有することで、新たなまちづくりの取組みの第一歩にするものです。

1 目的 人口減少の抑制をめざす、庄川地域のまちづくり

2 目標

- ◆地域の状況、問題を掌握し、課題を共有
- ◆地域の運営方針・方向性を示す実行計画（まちづくり計画（構想））の策定

砺波庄川まちづくり協議会
庄川町商工会 庄川峡観光協同組合



第1章 概要

- | | | |
|--------------|-------|---|
| 1 庄川地域の概要 | | 1 |
| 2 庄川地域4地区の概要 | | 4 |

第2章 地域の現状把握

- | | | |
|---------------|-------|----|
| 1 庄川地域 人口等の現状 | | 5 |
| 2 地域運営組織の状況 | | 11 |
| 3 特徴的な地域資源の状況 | | 17 |
| 4 公共施設の再編の状況 | | 31 |
| 5 各種まちづくりの状況 | | 32 |
| 6 近隣地域の状況 | | 38 |

第3章 問題の洗い出し

- | | | |
|------------------|-------|----|
| 1 過去・現在から見える“問題” | | 39 |
|------------------|-------|----|

第4章 今後の取組みについて

- | | | |
|--------------------|-------|----|
| 1 地域運営組織への周知等 | | 41 |
| 2 地域計画（まちづくり計画）の策定 | | 41 |

第1章 概 要

1 庄川地域の概要

(1) 沿 革

庄川地域の地で人が生活を営むようになったのは、縄文時代と言われています。地域内には、縄文時代中期（4,000～5,000年前）の遺跡として松原遺跡などがあり、石器や土器の出土品をはじめ竪穴式住居跡などの遺構が多く発見されています。

天平時代（748年）には、越中国の国司で万葉の代表的歌人であった大伴家持が、「雄神神社」へ参拝されたときの模様を歌に「雄神川くれない匂う乙女らし葦附（あしつき）とると瀬に立たすらし」と詠むなど、当時すでに当地方に集落があったと思われます。

中世になると、中央の文献に「越中国都波群野市金屋の鋳物師」の記録があり、これが現在の東山見地区の「金屋」地名のおこりとされています。

その後、戦国時代を経て、近世中期には「松川除」堤防の大工事（1670～1714年）が完成し、庄川の治水が成るとともに庄川扇状地の川跡が開墾され、近世後期（1800年頃）には、庄川地域の農業の基礎が確立されました。

特に「庄川嵐」と呼ばれる強い南風や土壌などの自然条件に恵まれた種田地区を中心に、水稻種子（種もみ）の生産が盛んに行われました。

一方、近世初期には、加賀藩により庄川上流の五箇山や飛騨の山林の伐採が進められ、庄川の流れを利用した木材の流送（流木）に従事する者が多くなり、明治になってからは、民間事業として森林資源の開発が積極的に進められ、庄川地域は木材の一大集散地となり木材産業が発達しました。

また、幕末の頃（1866年）、木材の豊富な庄川地域に挽物木地師が移住し、ロクロによる木工技術を伝えました。

明治初期、廃藩置県が実施されると、岩黒金屋村など複数の村が戸長役場を設けその後、明治22年、市町村制の実施により、東山見村・青島村・雄神村・種田村として発足しました。

大正末期から昭和初期にかけて豊富な庄川の水量を利用して電源開発事業が進められ、昭和5年に当時、東洋一を誇った日本で初めての高堰堤式の「小牧ダム」と「小牧発電所」が建設され、その後、昭和16年に「庄川合口堰堤（合口ダム）」の完成により、電源開発の拠点や用水の要として、脚光を浴びました。

そして、昭和27年6月1日、生活文化や歴史を同じくする四ヶ村は、“観光と産業の町”をスローガンに掲げ、自主的合併を行い「庄川町」を誕生させ、水と遊び、水に親しむことができる「庄川水記念公園」の整備や庄川温泉郷を活かした観光振興等を実施してきました。

さらに平成16年11月1日、互いに庄川で結ばれている隣接自治体「砺波市」と行政の効率化と行財政改革を目的に『庄川と散居に広がる 健康フラワー都市』をまちづくりの理念に対等合併し、「新砺波市」となり、現在に至ります。

(2) 地 勢

庄川地域は、富山県の南西部、砺波平野の東南に位置し、地域の東南部には、牛岳や鉢伏山・三条山など標高300～1,000mの山々が連なり、西北部には、屋敷林に囲まれた砺波散居村が広がっています。東は富山市（山田地域）、西は南砺市（井波地域）、南は南砺市（利賀村地域）にそれぞれ接し、東西6.90km、南北9.30km、総面積30.77km²で地域の中央を県内有数の長流、庄川（延長11km）が貫流しています。

岐阜県の烏帽子岳付近に源を発する「庄川」は、飛騨や五箇山の山間部を縫うように流れ、庄川地域ではじめて平野部に流れ出します。庄川地域は、庄川扇状地の扇頂にあり、砺波平野をはじめ射水平野に至る県西部をかんがいする用水の要に位置しています。

また、豊かな自然と田園の中に民家が点在する砺波平野の「散居村」では「カイニョ」と呼ばれる屋敷林が美しい景観を織りなしています。一方、庄川と並行して走る一般国道156号は、東海北陸自動車道の五箇山IC、北陸自動車道の砺波IC及びJR砺波駅・高岡駅へのアクセス道路として、重要な役割を果たしています。

(3) 特 性

ア 優れた風景地が豊富

庄川地域内及び周辺には富山県定公園17（2007(H19)現在）のうち、「庄川峡県定公園」「牛岳県定公園」「夢の平県定公園」「八乙女山・閑乗寺県定公園」「増山城跡県定公園」と約8km圏内に5つもあり、里山地域の優れた風景地を有します。

イ 地域の10%を占める河川・水路

「庄川」は平野部に流れ出す扇状地の要に位置し、県西部をかんがいする農業用水のほとんどが、地域内の「庄川合口堰堤（合口ダム）」から取水しており、地域の約10%が河川・水路で占められています。

国土交通省の発表（2020(R2)）では、「庄川」の水質が最も良好な河川（全国18河川）に選ばれています。

ウ 段丘の多い平野部

平地は、昔から庄川の洪水のたびに河道が変わった氾濫原であり、河岸段丘と新しい扇状地からなっているため、地域内のいたるところに段丘が見られます。

エ 砺波平野の屏風のように連なる山々

地域内の山地は、庄川右岸から切り立っている三条山・嵐山や眺望のきく牛岳・鉢伏山などの標高300～1000mの山々が、屏風のように連なっています。

オ 特産の「種もみ」と「ゆず」を育む「庄川嵐」

気候は、冬は寒く降雪・降水量が多く、春にかけて気温が上昇し、梅雨を過ぎるとやがて雨の少ない夏が来る典型的な日本海式気候です。年間を通じて最も多く吹く風は南西の風で、春に日本海を北上する低気圧の通過に伴いフェーン現象が頻発し、南の山々から吹き降ろす乾燥した強い風が吹きます。また、秋に入ると移動性の高気圧に覆われ、天気のいい日が続く、庄川の

谷間をぬって吹き出す「庄川嵐」は、別名「つゆ切り風」とも言われ、風速10m以上に達することがあります。この風が吹く夜は霧が降りないため、古くから良質の「種もみ」や、凸凹のある香り高い「ゆず」が生産されています。

また、近年は梅雨現象がはっきりしなかったり、暖冬で積雪がないなど、異常気象といわれる年もありますが、概ね年間の降水量は6・7月の梅雨期、9月の台風期、1・2月の降雪期が多く、北陸地方特有の豪雪地帯にあることから、水分の多い重い雪が降ります。気温は最暖期の8月には、30℃を越す日が数日間も続くことがあります。最寒期の1・2月には零度以下になることもあります。一日における温度差が大きいため一日中氷が張っていることはありません。

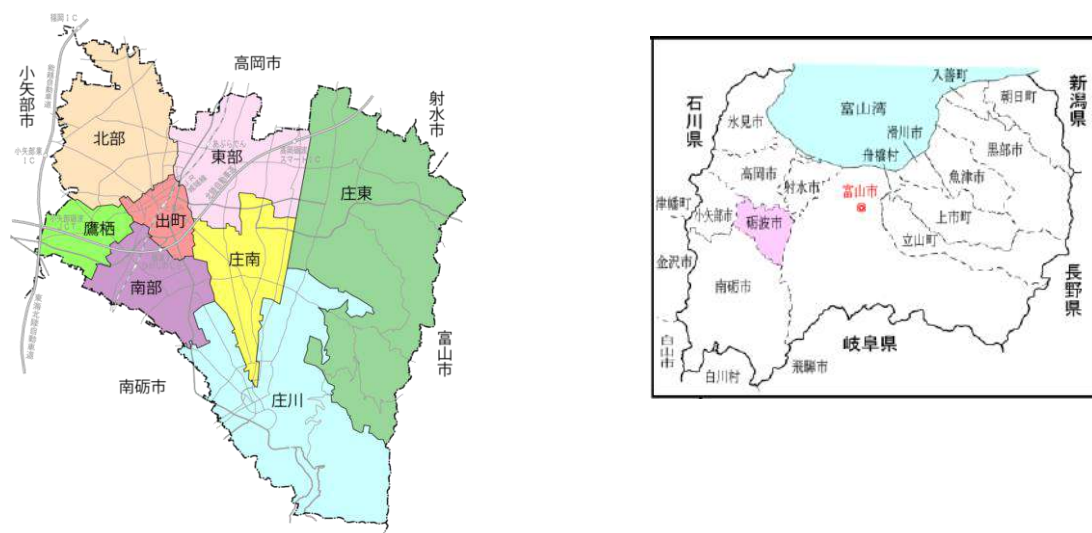


図1 砺波市内小学校区(庄川及び庄東は中学校区も同様)と砺波市の位置

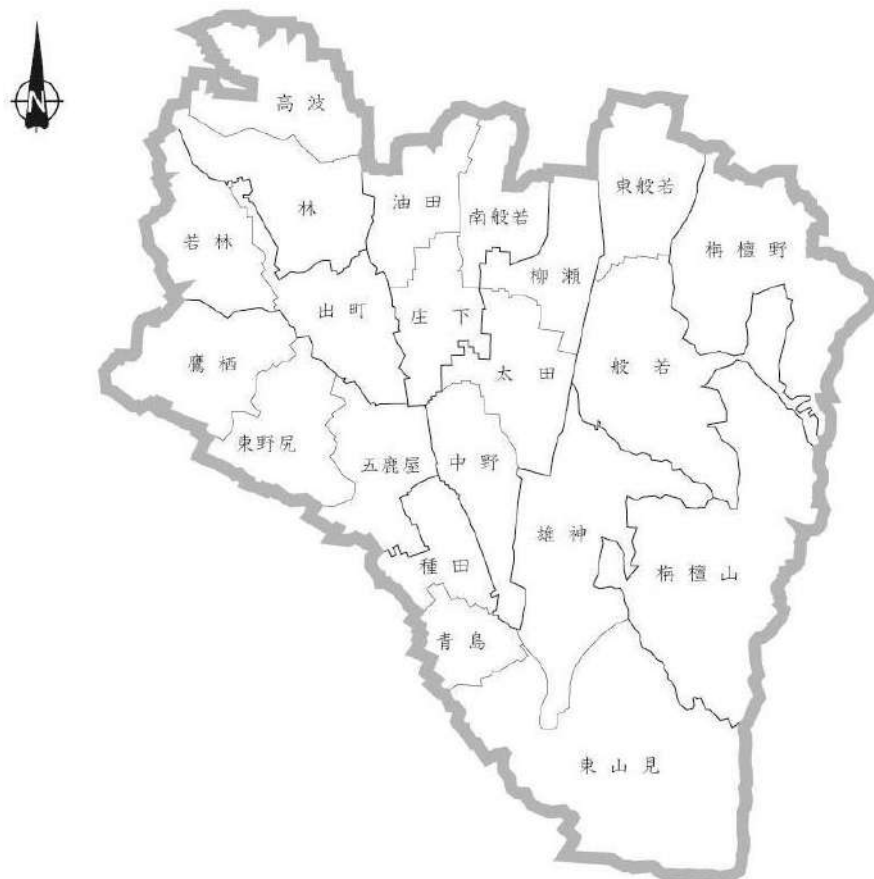


図2 砺波市内21地区

2 庄川地域 4 地区の概要

(1) 東山見地区

庄川地域の中でも山間地・中山間地・平野と複数の変化に富んだ地形を持つ地区である。県定公園庄川峡に沿って、「小牧ダム」「庄川合口堰堤（合口ダム）」「庄川水記念公園」がある。庄川水記念公園内の庄川河畔 舟戸公園には桜があるほか通年、催事が行われ、多くの来場者で賑わいをみせている。また、庄川小学校・庄川美術館・庄川大仏・名水百選瓜裂清水があり、加えて庄川温泉郷の中心地でもあり、観光客誘致に一役かっています。

(2) 青島地区

平野が主で市街地と農村地域で構成されている地区であり、市街地には、砺波市庄川支所・庄川健康プラザ、庄川生涯学習センター・庄川図書館、庄川中学校及び庄川体育センターなどの公共施設、南砺市井波地域と隣接する示野地区には、道の駅庄川をはじめとした商業施設が密集している。また、隣接の東山見地区にある合口ダムや庄川水記念公園から雄神地区の弁財天公園付近まで続く庄川沿いの松川除には、桜並木や金屋石で造られた石仏群があります。

(3) 雄神地区

庄川沿いの山間地であり、庄川に架かる雄神橋上流から雄神大橋下流までの県道庄川・新湊線沿いに長く位置している。大伴家持が万葉集のなかで「雄神川くれない匂う乙女らし葦附（あしつき）をとと瀬に立たすらし」と詠んでいるように、古くから栄えた地域である。近くには雄神神社が鎮座し長い歴史を刻んでいる。周辺には天正大地震の土石流に流されなかった「元雄神神社」の弁財天社（弁財天公園）など史跡名勝も多く、流域の歴史と文化を伝えています。

(4) 種田地区

平野が主で農村地域で構成されている地区であり、その名種田のとおり日本一の種場として約300年の伝統を誇っており、生産量が最も多くかつ良質の生産地として全国的に有名な「種もみ」を当地区にあるJAとなみ野稲種センターが支えています。また、種田コミュニティセンターを中心にナイター付きの種田公園、人工芝のスロープ屋根の親雪体育館などの公共施設がある。砺波市街地に比較的に近い地区で団地（約100世帯）が造成され旧世帯（約200世帯）と融合し地区を活性化しています。

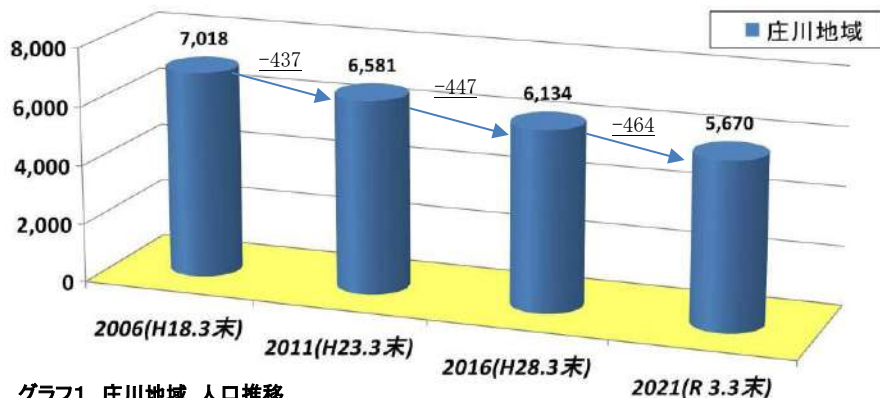
第2章 地域の現状把握

1 庄川地域 人口等の現状

日本全体で、少子化が進展した結果、総人口が減縮傾向となっている。砺波市は平成17(2005)年の49,429人(国勢調査)がピークでその後、減少を続けているがその要因の一つは、庄川地域など減少率が高い地域にあります。なお、庄川地域のピークは、昭和30(1955)年の8,168人。

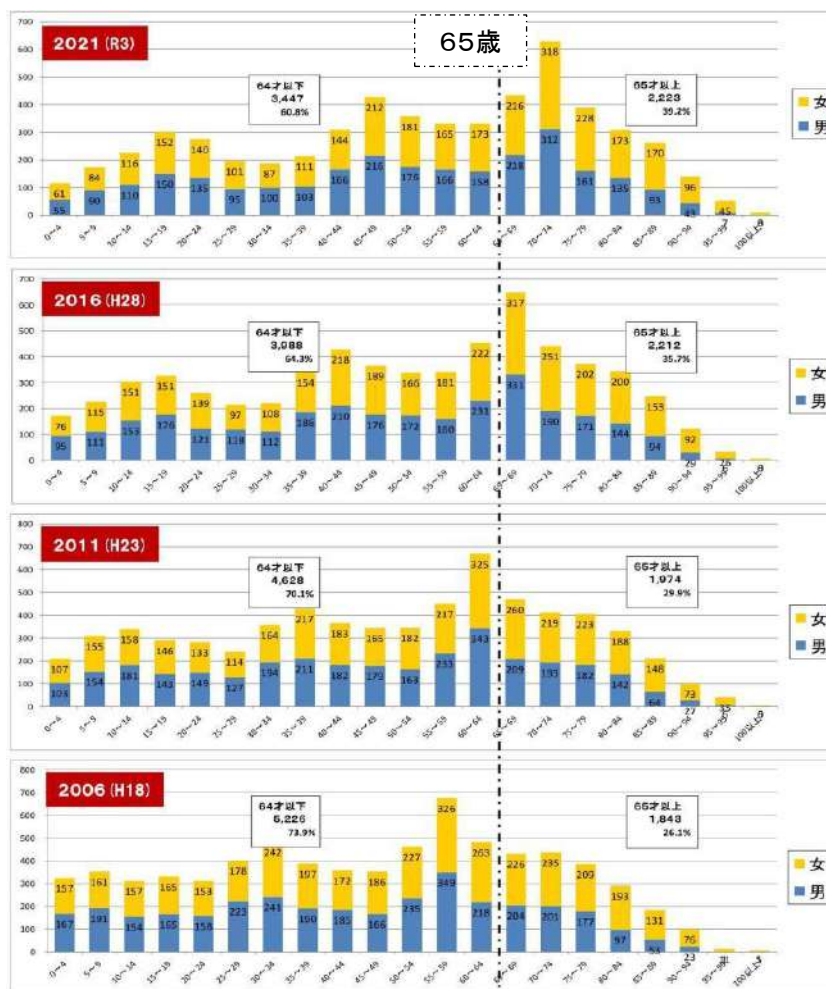
(1) 庄川地域の人口推移【5年ごと3月末現在】

5年ごとで見ると約450人づつ減少しているが年々、減少数は大きくなっています。



(2) 庄川地域 年齢別人口推移【2006(H18)～2016(H28)_1/末現在,2021(R3)_3/末現在】

65歳以上の高齢者の割合が年々、大きくなっています。



(3) 各地区人口の現在【令和7年3月末現在】

砺波市の平均より高齢化率は高く、増加傾向にあります。

地区名	世帯数	男	女	計① (男,女)	平均年齢	65歳以上	15歳未満	高齢化率	限界 集落	生産年齢 人口②	比率(②/①)	摘 要
1 東山見	653	802	890	1,692	55.2	714	123	42.2%		855	50.5%	
2 青島	677	837	933	1,770	53.3	677	167	38.2%		926	52.3%	
3 雄神	250	337	345	682	55.0	294	59	43.1%		329	48.2%	
4 種田	343	493	511	1,004	52.9	363	87	36.2%		554	55.2%	
合 計	1,923	2,469	2,679	5,148	54.1	2,048	436	39.8%		2,664	51.7%	

限界集落・・・65歳以上の高齢者が、人口比率で住民の50%を超えた集落

生産年齢・・・15～64歳の人口

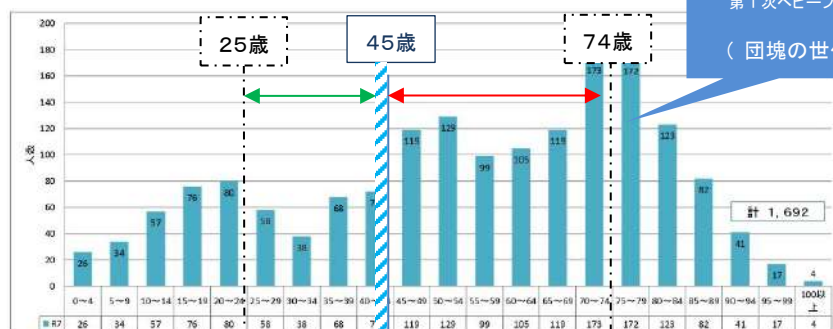
表1 各地区別 人口・世帯数等

ア 各地区 年齢別人口の現在【令和7年3月末現在】

69歳以下で見ると、各地区とも25歳から45歳まで少なく、45歳から74歳までは比較的、多くなっています。

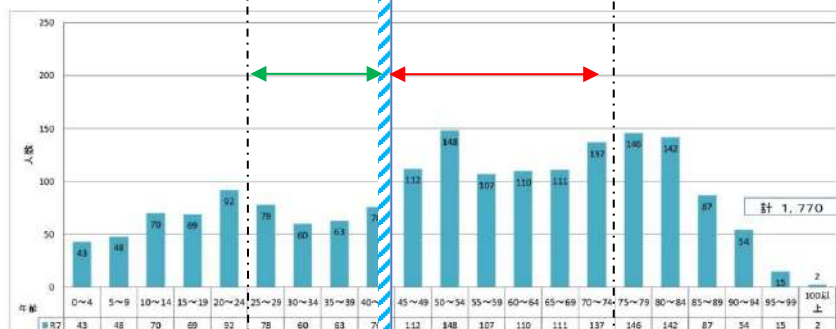
① 東山見地区

200



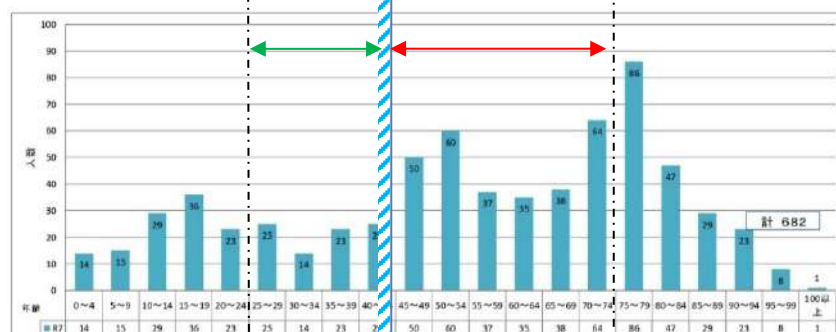
② 青島地区

250



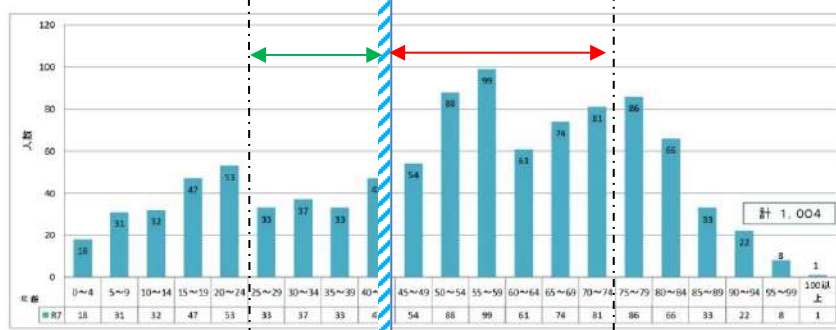
③ 雄神地区

90



④ 種田地区

100



グラフ3 各地区 年齢別人口の現在

イ 自治会別 人口・世帯数等【令和7年3月末現在】

東山見地区には、限界集落が見受けられます。

地区名		自治会名	世帯数	男	女	計① (男+女)	平均年齢	65歳以上	15歳未満	高齢化率	限界 集落	生産年齢 人口②	比率(②/①)	摘 要
東 山 見	1	1 小川原	28	34	43	77	55	32	5	41.6%		40	51.9%	
	2	2 市営住宅	27	15	29	44	45	12	9	27.3%		23	52.3%	
	3	3 原出た安	61	89	86	175	54	68	12	38.9%		95	54.3%	
	4	4 舟戸	39	64	58	122	54	53	13	43.4%		56	45.9%	
	5	5 京坂	68	96	101	197	51	62	20	31.5%		115	58.4%	
	6	6 畑直	55	67	64	131	52	51	13	38.9%		67	51.1%	※外国人1世 帯含む
	7	7 中屋敷	42	40	49	89	59	41	5	46.1%		43	48.3%	
	8	8 田畑岩黒	40	49	48	97	58	46	4	47.4%		47	48.5%	
	9	9 西野々	44	47	66	113	55	43	8	38.1%		62	54.9%	
	10	10 清水町	29	40	37	77	58	37	4	48.1%		36	46.8%	
	11	11 南部野	67	75	101	176	57	79	13	44.9%		84	47.7%	
	12	12 小牧	19	23	26	49	62	28	1	57.1%	○	20	40.8%	
	13	13 湯谷湯山	15	20	19	39	65	22	0	56.4%	○	17	43.6%	
	14	14 落シ	4	3	5	8	71	6	0	75.0%	○	2	25.0%	
	15	15 名ヶ原	4	3	3	6	77	5	0	83.3%	○	1	16.7%	
青 島	16	16 横住	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	
	17	17 岩黒団地	111	137	155	292	55	129	16	44.2%		147	50.3%	※外国人1世 帯含む
	18	18 中之島1	57	82	108	190	52	72	19	37.9%		99	52.1%	
	19	19 中之島2	※ 58	68	78	146	54	61	14	41.8%		71	48.6%	※外国人11世 帯含む
	20	20 東部	111	141	145	286	56	124	27	43.4%		135	47.2%	
	21	21 中部	29	37	42	79	57	34	3	43.0%		42	53.2%	
	21-1	21-1 関電庄和寮	9	9	0	9	27	0	0	0.0%		9	100.0%	
	22	22 西部	98	125	128	253	55	93	20	36.8%		140	55.3%	
	23	23 下村	82	128	135	263	52	99	29	37.6%		135	51.3%	
	24	24 示野	100	137	150	287	50	99	31	34.5%		157	54.7%	
雄 神	24-1	24-1 エントランスタウン	※ 59	27	42	69	40	12	4	17.4%		53	76.8%	※外国人32世 帯含む
	25	25 新栄町	24	27	31	58	52	24	11	41.4%		23	39.7%	
	26	26 青島新町	50	56	74	130	58	59	9	45.4%		62	47.7%	
	27	27 庄	87	101	122	223	58	108	13	48.4%		102	45.7%	※外国人2世 帯含む
	28	28 金剛寺	40	58	49	107	58	43	7	40.2%		57	53.3%	※外国人1世 帯含む
種 田	29	29 三谷	123	178	174	352	52	143	39	40.6%		170	48.3%	
	30	30 天正	87	139	125	264	53	97	21	36.7%		146	55.3%	
	31	31 五ヶ	69	88	104	192	58	89	13	46.4%		90	46.9%	
	32	32 古上野	102	141	159	300	51	95	29	31.7%		176	58.7%	
	33	33 高儀新・筏	85	125	123	248	51	82	24	33.1%		142	57.3%	
合 計			1,923	2,469	2,679	5,148	54	2,048	436	39.8%		2,664	51.7%	

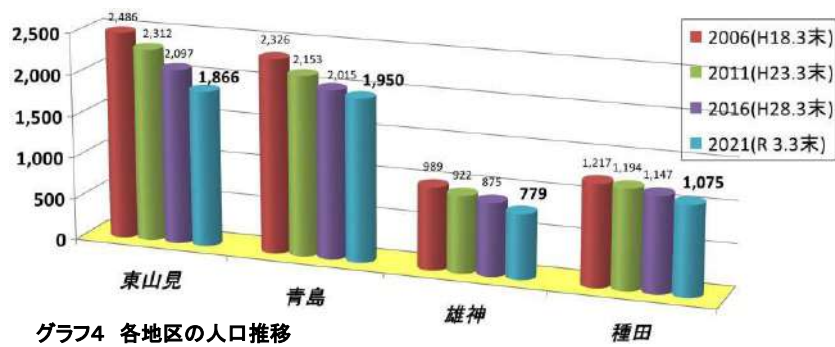
表2 自治会別 人口・世帯数等

〔用語説明〕

- ◆ 高齢化率………65歳以上の高齢者が、総人口に占める割合。
- ◆ 限界集落………65歳以上の高齢者が、人口比率で住民の50%を超えた集落。
- ◆ 生産年齢人口……国内の生産活動を中心となって支える人口のこと。(OECD 定義: 15～64歳)

ウ 各地区の人口推移 【 5 年ごと_3 月末現在 】

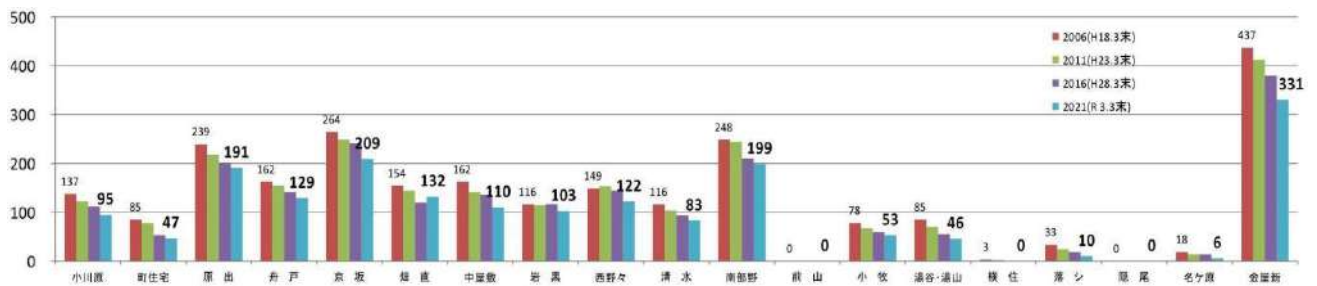
各地区ともに減少しているが、特に東山見地区は大きく減少しています。



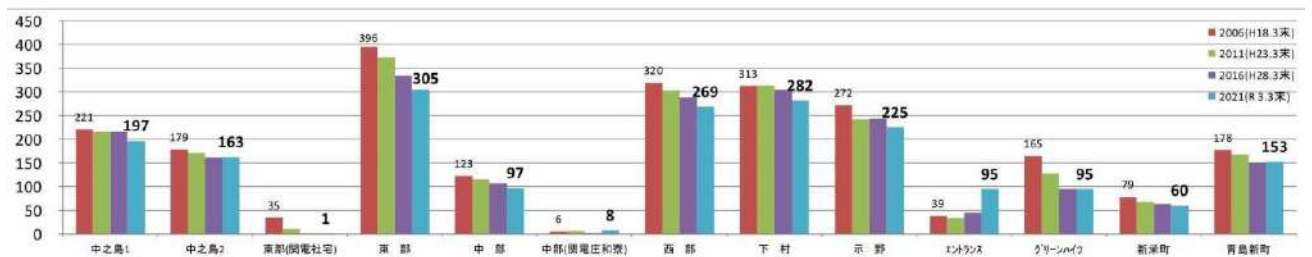
グラフ4 各地区の人口推移

エ 自治会別 人口推移 【 5 年ごと_3 月末現在 2006(H18)と2021(R3)のみ数字表示 】

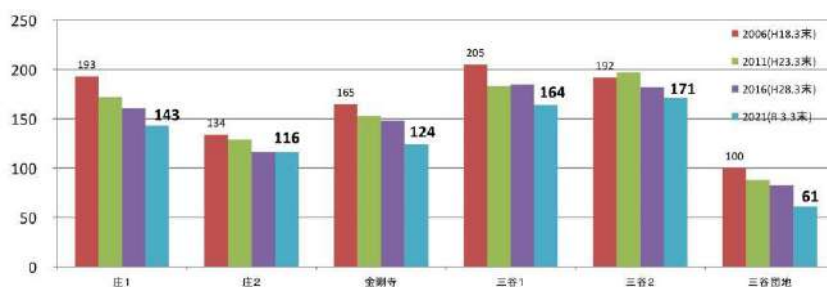
① 東山見地区



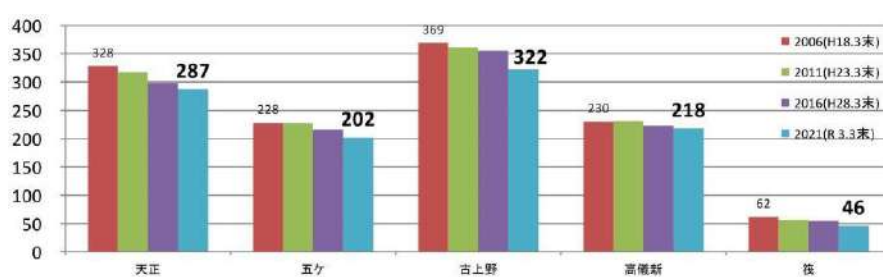
② 青島地区



③ 雄神地区



④ 種田地区



グラフ5 自治会別 人口推移

(4) 庄川地域保育所、庄川小学校及び庄川中学校の園児・児童・生徒数

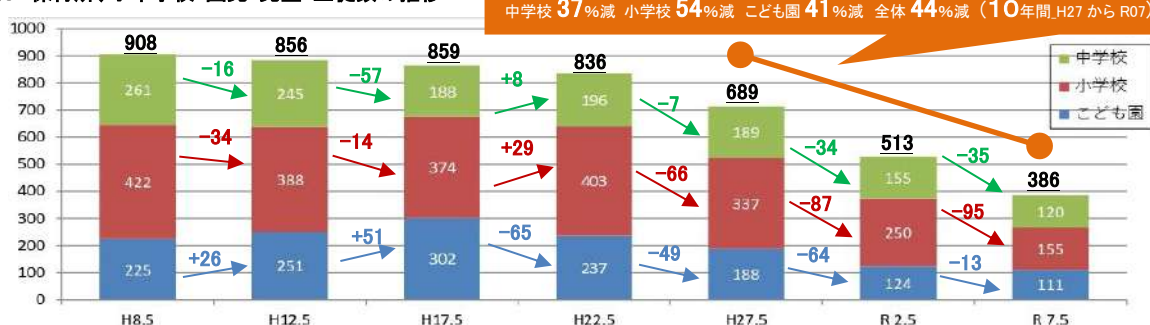
旧庄川町時代は、少子・高齢化が進展することをいち早く予測し、平成初期に他自治体に先駆けて『人口増加を推進する施策』を打ち出し事業を実施してきたが合併後、行われなくなったことや全国的に少子化が加速したこともあり、減少に歯止めが効かない状態にあります。

ア 園児・児童・生徒数の推移【5年ごと5/1末現在】

平成17(2005)年から減少しており、特に令和7(2025)年の園児数の減少が顕著です。

年 度	区 分	保育所(認定こども園)							小学校							中学校			
	年 齢	0	1	2	3	4	5	計	6	7	8	9	10	11	計	12	13	14	計
	学 年	0歳	1歳	2歳	年少	年中	年長		1年	2年	3年	4年	5年	6年		1年	2年	3年	
1996(H08)		0	0	46	60	64	55	225	64	54	77	90	78	59	422	101	71	89	261
2000(H12)		0	0	51	73	71	56	251	49	59	68	61	66	57	251	74	92	79	245
2005(H17)		6	25	56	61	66	88	302	54	63	75	69	60	48	369	61	66	61	188
2010(H22)		2	22	41	55	62	55	237	66	68	61	63	90	55	403	60	71	65	196
2015(H27)		2	22	30	44	55	35	188	44	49	50	55	49	65	312	69	60	60	189
2020(R02)		2	15	26	18	33	30	124	31	36	41	46	33	47	234	49	52	54	155
2025(R07)		3	17	23	19	21	28	111	20	26	20	29	29	31	155	37	41	42	120

表3 保育所、小中学校 園児・児童・生徒数の推移



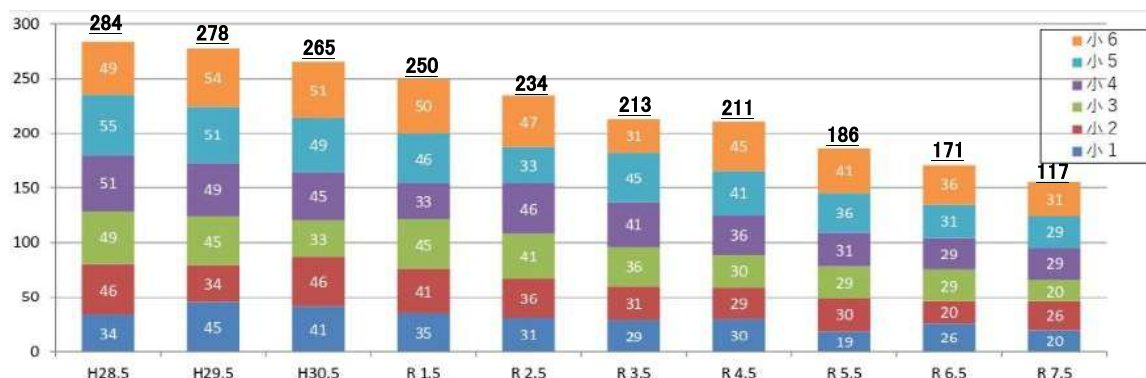
グラフ6 保育所、小中学校 園児・児童・生徒数の推移

イ 庄川小学校及び庄川中学校の児童・生徒数の推移【令和7年から過去10年】

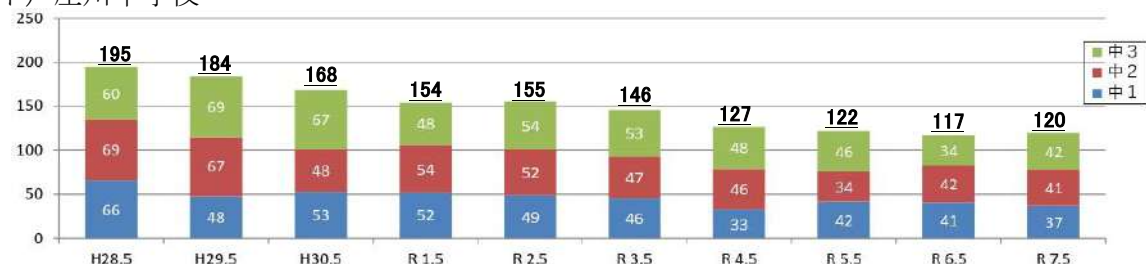
小中学校共に年々減少し、小学校では単数クラスが複数クラスを超えています。

参考情報 1クラス35人以上

(ア) 庄川小学校



(イ) 庄川中学校



グラフ7 小中学校 児童・生徒数の推移

(5) 庄川地域の空き家

砺波市全体の空き家の総数は、令和6(2024)年度では598軒となっており、27%を庄川地域が占めています。その中でも東山見及び青島地区には、多くの空き家があります。

ア 空き家数の推移【令和7年3月末現在】

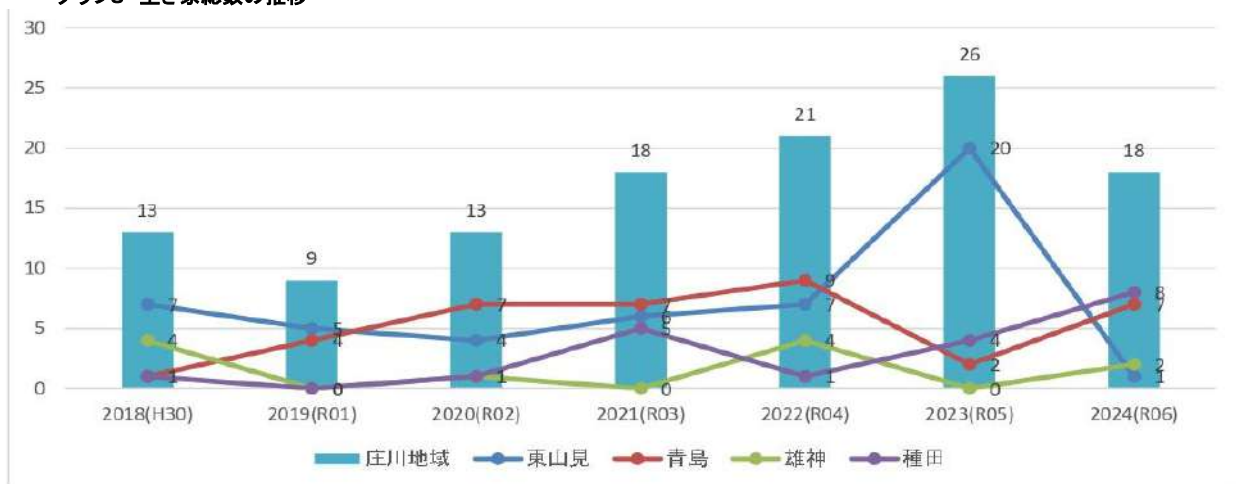
毎年、増加してきましたが令和元(2019)年は前年より減少しました。しかし、翌年度から解消される数より新規の数の方が上回り空き家は再び増加しています。なお、解消されている理由は、売買や取り壊しによるものです。

年度	2014(H26)	2015(H27)	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(R01)	2020(R02)	2021(R03)	2022(R04)	2023(R05)	2024(R06)
地区等	H270331	H280331	H290331	H300331	R010331	R020331	R030331	R040331	R050331	R060331	R070331
1 東山見	29	29	39	55	60	49	50	52	56	74	71
新規		2	15	19	7	5	5	6	7	20	1
解消		2	5	3	2	16	4	4	3	2	4
2 青島	39	48	51	59	51	50	50	50	54	51	57
新規		11	10	8	1	4	3	7	9	2	7
解消		2	7	0	9	5	3	7	5	5	1
3 雄神	11	13	11	12	15	11	15	14	17	16	14
新規		3	0	1	4	0	4	0	4	0	0
解消		1	2	0	1	4	0	1	1	1	2
4 種田	2	3	7	7	7	6	6	10	10	12	18
新規		1	5	3	1	0	0	5	1	4	8
解消		0	1	3	1	1	0	1	1	2	2
庄川地域	81	93	108	133	133	116	121	126	137	153	160
新規	-	17	30	31	13	9	12	18	21	26	16
解消	-	5	15	6	13	26	7	13	10	10	9
砺波市全体	351	403	423	467	478	460	489	502	550	578	598

表4 空き家数の推移



グラフ8 空き家総数の推移



グラフ9 新規の空き家数の推移

2 地域運営組織の状況

地域運営組織とは、地域住民や地元事業体が、それぞれの役割を明確にしながら、生活サービスの向上や域外からの収入確保など地域課題の解決に向けた取り組みを持続的に行う組織です。

庄川地域内にある様々な組織を地域運営組織と捉え、①地縁的組織、②機能的組織、③経営的組織に区分し、その状況等を明記します。

(1) 地域運営組織の区分定義

N o	区 分	説 明	団 体
—	包括組織	①～③の集合した協議体	砺波庄川まちづくり協議会
①	地縁的組織	地域の自治を担う公共的性格を有している組織	自治振興会、自治会
②	機能的組織	地域のために各目的に沿って活動している組織	P T A、公民館、消防団、N P O団体など
③	経営的組織	営利や経営支援等を目的として経済活動を行う組織の集合体	商工会、民間の組合など

(2) 地域運営組織の状況

庄川地域を包括する①～③の組織を記載します。

① 地縁的組織の概要

N o	団 体	活動内容
1	庄川地区自治振興会 協議会	砺波市庄川地域（平成16（2004）年の合併前にあった庄川町）の自治振興会で組織する団体で小・中学校区も同じであることから、課題等を共有し地域内の様々な活動の支援、協力をしている。
2	各地区自治振興会 （東山見・青島・雄神・種田）	砺波市内、21地区（昭和27（1952）年の合併前にあった村単位）に1つある。地域住民の福祉向上及び地域コミュニティ活動の推進を図ることを目的として各地区の自治会をとりまとめている。 庄川地域の自治振興会の前身は、平成元（1989）年に設置された区長連絡協議会の4支部（東山見・青島・雄神・種田）に平成13（2001）年、各地域の各種団体を加えて再編したもの。毎年、地域の課題を取りまとめ要望書を砺波市へ提出している。 参照 別冊資料 No1
	各地区自治会	地域に住む住民同士が助け合い協力しあって、住みよい地域社会を創っていくことを目的としている組織。庄川地域では、一般的に町内会、常会と呼ばれている。かつて、旧庄川町では、地域内の自治会すべてに行政区番号を付していたことから、現在でもその呼び名が使われている。
	各種団体	各自治振興会単位や自治会単位で各目的に沿って組織されている団体。

② 機能的組織の概要

N o	団 体	活動内容
1	庄川地区公民館連絡協議会	庄川地域の地区公民館で組織する団体。地域の文化・歴史が類似し小・中学校区も同じであることから、連携及び協働事業を積極的に実施している。
	各地区公民館 (東山見・青島・雄神・種田)	砺波市公民館条例に基づき設置された組織。社会教育の振興及び地方文化の向上を図るとともに産業発展の基を築くため、砺波市内21地区にそれぞれに1つある。
2	庄川地区民生委員 児童委員協議会	庄川地域の民生委員で組織する団体。地域内の社会福祉の向上を始め委員相互の連携を図り、活動を実施している。
3	庄川地域教育支援協議会	庄川地域の小中学校の教育振興に地域全体で取り組むため令和元(2019)年に発足した団体。前身にPTAや学校を中心にした「庄川っ子育成会」があったが、社会的な動きや児童生徒の減少が起因となり、地域の宝である児童生徒を地域全体で支えることとなった。協議会の中に、支援推進、健全育成、ふるさとの3専門委員会を設置し、支援金募集や見守り活動、地域学習のサポートなどを行っている。
4	庄川小学校PTA	児童の保護者と教諭が共に研修に努め、学校・家庭・社会が一体となって児童の幸福と教育効果の高揚を図るために4委員会(保健委員会、広報委員会、生活委員会、教養委員会)で組織している団体。
5	庄川中学校PTA	生徒の保護者と教諭が研修に努め、学校・家庭・社会が一体となって生徒の幸福と教育効果の高揚を図るために3部会(学年教養部、生活指導部、広報部)、2委員会(運営委員会、学年委員会)で組織している団体。
6	しょうがわ認定こども園保護者会	子どもたちを支援するために保護者で組織している団体。
7	庄川方面隊 (砺波市消防団)	庄川地域にある消防団で組織する団体。
	各地区消防団 (ひまわり・東山見・青島・雄神・種田)	砺波市消防団条例に基づき設置されている組織。砺波市内21地区に1つある。庄川地域内には、振興会単位に分団と女性で組織されているひまわり分団がある。

8	庄川スポーツクラブ アユーズ	平成16（2004）年に庄川地域で設立したスポーツクラブ。種目や年齢を超えて地域の人々で楽しむ活動プログラムを提供し、地域に密着した活動を行う団体。
9	砺波嵐山桜保存会	砺波市の庄川地域をサクラの名所にする活動を行っている。 庄川右岸の三条山は、京都嵐山の景色に似ていることから「砺波嵐山」と呼ばれている。ここには、数多くのエドヒガンが自生しており、春には山の斜面に点々と咲く様子が見られ、対岸の舟戸公園と比べると野趣にとんだ風景を楽しめる。エドヒガンがこれほど自生している場所は大変貴重で、昭和48（1973）年には当時の庄川町の町の花に指定され、現砺波市でも市の花木に指定されています。保護育成のため、有志により設立され、日常の管理はもとより苗木の増殖なども行っている団体。
10	NPO法人 庄川峡 わくわく倶楽部	平成25（2013）年に設立し、庄川峡周辺の住民及び有志とともに、庄川峡周辺の自然の保護、育成及び管理に関わる事業、イベント企画及び運営、これに関わる支援活動及び情報発信事業を行い、環境への理解を深め、地域社会の活性化と子どもたちの健全育成に寄与している団体。
11	庄川町夜高保存会	幾度と中止されてきた夜高行燈が昭和47（1972）年に復活したことを機に、昭和50（1975）年に各町内の申し合わせにより設立され、現在まで庄川観光祭の花火と並ぶ一大行事、夜高行燈練り回し等の運営から小学生等への教育事業（祭り文化の伝承）を実施し、観光及び地域振興に尽力している団体。
12	チャレンジャー 2010	地域を支える人材育成及び青年のよりどころとしての器、地域貢献を行う団体。平成4（1992）年に町内外を問わず、庄川町連合青年団、（公社）となみ青年会議所庄川コミュニティ、トーンクラスター（庄川中学校吹奏学部OB）、庄川地域の企業に勤める18～40歳前後の若者により結成され、地域のイベント（特産市・もちもち遊楽）に積極的に参加し、特に庄川地域のメインイベントである「庄川水まつり」の企画、運営に携わり、平成11（1999）年以降「庄川水まつり」の運営をまかされ、現在も実施している。 『チャレンジャー2010』という名称は、何にでもチャレンジしたいとの想いと結成当時の庄川地域の子ども達が私たちの年齢に達する2010年頃にこの気持ちを受け継ぎ、地域のため、自分たちのために活動が続けていってほしいという想いを込めて名づけられた。

③ 経営的組織の概要

No	団 体	活動内容	状 況																			
1	庄川町商工会	商工会は、地域に密着した総合経済団体で事業概要は、地域事業者が会員となり、ビジネスやまちづくりのために活動を行う総合経済団体。昭和35（1960）年に施行された「商工会法」に基づいて設立し、全国の市町村に設置された全国的なネットワークを有し、国や県の小規模企業施策の実施機関として、さまざまな事業を実施している。 1 商工会の2大事業 （1）事業者の経営改善普及事業 小規模事業者の経営や技術の改善発達のために、経済産業大臣や都道府県の定める資格をもつ経営指導員などが、金融、税務、経営、労務などの相談や指導に従事している。 （2）地域振興事業 地域の「総合経済団体」として、また中小企業の「支援機関」として、経済活動を通じて元気な地域づくりと商工業の振興のため、意見活動、まちづくり、社会一般の福祉の増進など、さまざまな事業に取り組んでいる。 2 事務及び業務の一部を請け負う委託団体 庄川町青色申告会、砺波食品衛生協会庄川支部、庄川町事業所協会、庄川町衣料組合、庄川峡観光協同組合、庄川木工挽物会、庄川挽物木地伝統工芸士会 3 実施及び携わっている行事・イベント等 庄川観光祭（花火大会）、恋プロナイト、庄川笑倍繁盛演芸会、ビッグ庄川なんでも市、庄川水まつり、厄払い鯉の放流、チューリップ公園KIRAKIRA ミッション、となみ夢の平コスモスウォッチング、となみ産業パワー	（庄川町商工会調べ） <table><tr><td colspan="2">会 員 数</td></tr><tr><td colspan="2">毎年、会員が10前後減少している。</td></tr><tr><td>2004(H16)</td><td>2024(R06)</td></tr><tr><td>296</td><td>202</td></tr><tr><td colspan="2">新規会員数</td></tr><tr><td colspan="2">一定の新規事業者がある。（過去3年）</td></tr><tr><td>2024(R06)</td><td>0</td></tr><tr><td>2023(R05)</td><td>6</td></tr><tr><td>2022(R04)</td><td>4</td></tr></table>		会 員 数		毎年、会員が10前後減少している。		2004(H16)	2024(R06)	296	202	新規会員数		一定の新規事業者がある。（過去3年）		2024(R06)	0	2023(R05)	6	2022(R04)	4
			会 員 数																			
			毎年、会員が10前後減少している。																			
			2004(H16)	2024(R06)																		
			296	202																		
			新規会員数																			
			一定の新規事業者がある。（過去3年）																			
			2024(R06)	0																		
			2023(R05)	6																		
			2022(R04)	4																		
2	庄川峡観光協同組合	大正14（1925）年に小牧ダム着工と共に設立し、平成23（2011）年に定款を改定し完全な異業種組合に転換した。旅館・飲食店・地域の商店（魚屋・肉屋・酒屋）・農業・食品製造業・ガソリンスタンド・運輸関係などの方々も入会し、観光振興を軸に異業種が連携した地域内循	（庄川峡観光協同組合調べ） <table><tr><td colspan="2">会 員 数</td></tr><tr><td colspan="2">全国的にも珍しい異業種組合に転換（2011 年）し、会員数が倍増となっている。</td></tr></table>		会 員 数		全国的にも珍しい異業種組合に転換（2011 年）し、会員数が倍増となっている。															
			会 員 数																			
			全国的にも珍しい異業種組合に転換（2011 年）し、会員数が倍増となっている。																			

		環による「地方創生」を目指している。 一番大きな目的は、観光をキーワードに永続的な「地方創生」を実現させることで「にぎわい」や「活性化」といった漠然とした成果だけではなく、継続的に地域にお金を落とす仕組みをつくること。現在の具体的な組合の収益事業は主に3つ。 ① 指定管理業務 (庄川水記念公園、ゆずの郷やまぶき、庄川清流パーク、夢の平コスモス荘) ② 「道の駅庄川」のテナント運営 ③ 地域の特産品を使用したお土産品の開発や販売。	<table><tr><td>2004(H16)</td><td>2024(R6)</td></tr><tr><td>22</td><td>38</td></tr><tr><td colspan="2">新規会員数</td></tr><tr><td colspan="2">一定の新規事業者がある。(過去3年)</td></tr><tr><td>2024(R06)</td><td>0</td></tr><tr><td>2023(R05)</td><td>0</td></tr><tr><td>2022(R04)</td><td>0</td></tr></table>	2004(H16)	2024(R6)	22	38	新規会員数		一定の新規事業者がある。(過去3年)		2024(R06)	0	2023(R05)	0	2022(R04)	0		
2004(H16)	2024(R6)																		
22	38																		
新規会員数																			
一定の新規事業者がある。(過去3年)																			
2024(R06)	0																		
2023(R05)	0																		
2022(R04)	0																		
3	庄川開発株式会社	平成元(1989)年、砺波市(旧庄川町)と庄川地域内企業の共同出資で地域の振興と活性化をねらい設立した。ふるさと創生事業の一環として、ふるさと財団(地域総合整備財団)の支援を得て県内第一号事業としてテナント・住宅複合ビルと単身者住宅ビルを建設した。これにより、新しい住宅と商店街が誕生し雇用の提供も含め地域の活性化に寄与している。	<table><tr><td colspan="2">(庄川開発(株)調べ)</td></tr><tr><td colspan="2">入居数_テナント・住居</td></tr><tr><td colspan="2">現在、住居とテナントに若干、空きが出てきた。</td></tr><tr><td>2004(H16)</td><td>2024(R6)</td></tr><tr><td>テナント</td><td>テナント</td></tr><tr><td>18(空 3)</td><td>21(空 4)</td></tr><tr><td>住宅</td><td>住宅</td></tr><tr><td>53(空 7)</td><td>53(空 8)</td></tr></table>	(庄川開発(株)調べ)		入居数_テナント・住居		現在、住居とテナントに若干、空きが出てきた。		2004(H16)	2024(R6)	テナント	テナント	18(空 3)	21(空 4)	住宅	住宅	53(空 7)	53(空 8)
(庄川開発(株)調べ)																			
入居数_テナント・住居																			
現在、住居とテナントに若干、空きが出てきた。																			
2004(H16)	2024(R6)																		
テナント	テナント																		
18(空 3)	21(空 4)																		
住宅	住宅																		
53(空 7)	53(空 8)																		
4	金屋ゆず生産組合	昭和48(1973)年、旧庄川町がゆずを「町の木」に指定し、全世帯に苗木を配布。昭和56(1981)年、県の「特産の里」指定品目に位置づけられたことを契機に地元の生産者が中心となり「金屋ゆず生産組合」が設立し、安定した栽培に向けた取り組みが行われるようになり、施肥やせん定、防除などの技術向上に努めながら、品質の向上に努めている。 毎年、11月に開催する「庄川ゆずまつり」の中心的な役割を果たしている。約5.1haで1,000本余りのゆずを栽培していますが、組合員数は、減少傾向にあり、高齢化も顕著で今後の生産体制が不安な状況である。	<table><tr><td colspan="2">(金屋ゆず生産組合調べ)</td></tr><tr><td colspan="2">組合員数</td></tr><tr><td colspan="2">組合員数は減少傾向にあり、平均年齢も高くなっている。</td></tr><tr><td>2013(H25)</td><td>2024(R6)</td></tr><tr><td>42</td><td>31</td></tr></table>	(金屋ゆず生産組合調べ)		組合員数		組合員数は減少傾向にあり、平均年齢も高くなっている。		2013(H25)	2024(R6)	42	31						
(金屋ゆず生産組合調べ)																			
組合員数																			
組合員数は減少傾向にあり、平均年齢も高くなっている。																			
2013(H25)	2024(R6)																		
42	31																		

5	庄川木工挽物会	経済産業大臣が指定する伝統的工芸品「庄川挽物木地」の事業者団体。戦前から存在していた団体を中心に、昭和44(1969)年、「庄川木工協同組合」として法人登録し、平成30(2018)年に任意団体へ移行したもの。 技術技法の後継者育成、需要開拓、共同販売、伝統工芸士の作品展示等、庄川挽物木地のPR活動を行ってきた。 近年では、全国の伝統的工芸品と同様、生活様式の変化等に伴って、後継者不足が特に課題となっており、事業所数・従事者数は著しく減少、従事者の年代は高齢化している。	(庄川町商工会調べ) 事業所数・従事者数 事業所数・従事者数ともに激減している。 <table><tr><td>2005(H17)</td><td>2024(R6)</td></tr><tr><td>事業所 24 従事者 48</td><td>事業所 9 従事者 10</td></tr></table> 参考 1987(S62) 事業所 38,従事者 148	2005(H17)	2024(R6)	事業所 24 従事者 48	事業所 9 従事者 10																
2005(H17)	2024(R6)																						
事業所 24 従事者 48	事業所 9 従事者 10																						
6	庄川泉源株式会社	平成3(1991)年に第三セクターとして設立。平成6(1994)年より、「庄川清流温泉」を庄川温泉郷のホテル・旅館・施設に配湯している。 最近では庄川地域外の介護福祉施設や「庄川おんせん野菜」栽培のためにも供給している。 平成27(2015)年には、会社事務所に隣接地に、かつて「砺波嵐山」で採掘されていた「金屋石」を使った足湯をオープンし、地域資源の魅力も合わせて発信している。	(庄川泉源調べ) 供給箇所 供給するホテル・旅館は2000(H12)頃と変わらず、8あるが、現在は庄川地域に留まらず、南砺市の施設や野菜栽培などに活用するなど、幅広い活用をしている。 ホテル・旅館及び観光施設 <table><tr><td>2000(H12)</td><td>2024(R6)</td></tr><tr><td>ゆめつづり</td><td>ゆめつづり</td></tr><tr><td>三楽園</td><td>三楽園</td></tr><tr><td>やまぶき荘</td><td>ゆずの郷やまぶき</td></tr><tr><td>越中庄川荘</td><td>となみ野庄川荘</td></tr><tr><td>スターリーナイト</td><td>ウッドプラザ足湯</td></tr><tr><td>舟戸荘</td><td>37BASE</td></tr><tr><td>平家</td><td>古民家 柚子季</td></tr><tr><td>庄永閣</td><td>合同会社 株坂商事</td></tr><tr><td></td><td>ルートイン砺波</td></tr></table>	2000(H12)	2024(R6)	ゆめつづり	ゆめつづり	三楽園	三楽園	やまぶき荘	ゆずの郷やまぶき	越中庄川荘	となみ野庄川荘	スターリーナイト	ウッドプラザ足湯	舟戸荘	37BASE	平家	古民家 柚子季	庄永閣	合同会社 株坂商事		ルートイン砺波
2000(H12)	2024(R6)																						
ゆめつづり	ゆめつづり																						
三楽園	三楽園																						
やまぶき荘	ゆずの郷やまぶき																						
越中庄川荘	となみ野庄川荘																						
スターリーナイト	ウッドプラザ足湯																						
舟戸荘	37BASE																						
平家	古民家 柚子季																						
庄永閣	合同会社 株坂商事																						
	ルートイン砺波																						



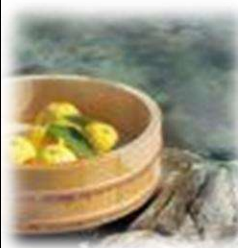


3 特徴的な地域資源の状況

庄川地域内には、全国に誇れる特産物が多数あり、砺波市が「となみブランド」に認定している特産物 17 品目中、6 品目が庄川地域で生産され、地域にとって大切な資源となっています。また、地域資源とも言える施設や伝統行事も多数あります。

(1) 地域資源的な特産物の状況

農産物としてブランド化に成功している“庄川ゆず”をはじめ庄川地域内には、地域資源となっている特産物が多数存在しています。

No	品 目	説 明	となみ ブランド	状 況								
1	庄川ゆず	庄川地域内で最大の生産集落が金屋地区にあったことから、以前は「金屋ゆず」と呼ばれていたが、現在は庄川地域で生産されるゆず全体を指して「庄川ゆず」と呼ばれている。栽培が拡大するきっかけとなったのは、昭和45年以降の転作制度。転作作物として農地にゆずの木が植えられるようになり、通称「ゆず団地」と呼ばれるエリアが生まれた。 昭和62(1987)年には、庄川ゆずの更なるブランド化の推進を図るため、毎年11月中旬に、地域のイベントとして「庄川ゆずまつり」を開催し、生ゆず以外にも、「ゆずみそ」や「ゆずジュース」など、庄川ゆずを加工した様々な加工品が販売され、多くのリピーターを呼び込んでいる。 	○	(金屋ゆず生産組合調べ) 出荷総数 収穫量は、隔年ごとに大きく異なり、例えば平成19年度に23tが収穫されたのに対し、翌20年度は5.7tまで減少した。 なお、直径56mm以下はゆずまつりに出荷していない。 <table><tr><td>2000(H12)</td><td>2024(R6)</td></tr><tr><td>9,900kg</td><td>1,500kg</td></tr></table> 最大出荷年度 <table><tr><td>2007(H19)</td><td>23,000kg</td></tr></table> 最小出荷年度 <table><tr><td>H29、R04</td><td>2,100kg</td></tr></table> 参考 2024(R6)1,500kg 	2000(H12)	2024(R6)	9,900kg	1,500kg	2007(H19)	23,000kg	H29、R04	2,100kg
2000(H12)	2024(R6)											
9,900kg	1,500kg											
2007(H19)	23,000kg											
H29、R04	2,100kg											
2	種もみ (水稻種子)	種もみとは、水稻の種子であり、富山県は、全国の種もみ受託生産量の約6割を占める全国一の種もみ生産県。 この中でも、その出荷量の約5割を生産しているのが、庄川・中野地区。現在は、東北から九州までの43都府県に出荷し、約40品種におよぶ種もみを栽培している。庄川扇状地が作	○	(JAとなみ野稲種センター調べ) 水稻種子 作付面積、出荷量及び従事者が減少傾向にある。 従事者数だけで見れば、2020(R2)に中野地区が庄川地域を超えた。これは、種田								

	り出す朝夕の露切り風、豊富な雪どけ水や扇状地ならではの水はけの良い土質等の優れている生育環境の中で、宝暦年間から今まで約270年にもわたる歴史で培われた、長年の知識や経験、努力などによって生み出された優れた栽培技術により、発芽率が高く粒肥大で熟色の良い種もみが生産されている。 平成29(2017)年から生産効率の向上と高品質化に取り組むため法人化に取り組み、生産している。 	地区の天正、筏・高儀新、古上野がそれぞれ法人化したことによるもの。 <table><tr><td>地区/年</td><td>2004 (H16)</td><td>2024 (R06)</td></tr><tr><td>作付面積</td><td>517ha</td><td>439ha</td></tr><tr><td>出荷量</td><td>2,886t</td><td>2,357t</td></tr><tr><td colspan="3">従事者数(人)</td></tr><tr><td>庄川</td><td>249</td><td>71</td></tr><tr><td>中野</td><td>179</td><td>115</td></tr><tr><td>合計</td><td>428</td><td>186</td></tr></table> 参考 2019(R01)従事者 庄川地域 140人 中野地区 129人	地区/年	2004 (H16)	2024 (R06)	作付面積	517ha	439ha	出荷量	2,886t	2,357t	従事者数(人)			庄川	249	71	中野	179	115	合計	428	186
地区/年	2004 (H16)	2024 (R06)																					
作付面積	517ha	439ha																					
出荷量	2,886t	2,357t																					
従事者数(人)																							
庄川	249	71																					
中野	179	115																					
合計	428	186																					
3	庄川挽物木地 庄川地域は、江戸時代から昭和初期にかけて飛騨山地で切り出された原木を庄川の流れを用いて送り、その木材を貯木する一大集散地として栄えた。庄川挽物木地は、その豊富な木材を利用して幕末より始まった地場産業とされている。昭和53(1978)年には、経済産業大臣の指定を受け「伝統的工芸品」となった。 製造においては、板状に製材した木材を1年程度自然乾燥させたのち、ロクロによる作業を行う。一つひとつが職人の手作業で作られる製品は、横ロクロを用いて横木材を加工しており、年輪が様々な形で現れることが特長で、杢目(もくめ)の美しさが際立ち、丈夫な製品となっている。製品は使い込むほどに味わいが増すもので、環境によって光沢や色調の変化も表れる。製品は、漆器産地の下地材として出荷されているほか、ウレタンなど漆以外の塗装による製品や、白木地製品がある。 	○ (庄川町商工会調べ) 売上額 事業所数とともに売上額も減少している。 <table><tr><td>2013(H25)</td><td>2024(R6)</td></tr><tr><td>140,000 千円</td><td>70,000 千円</td></tr></table> 	2013(H25)	2024(R6)	140,000 千円	70,000 千円																	
2013(H25)	2024(R6)																						
140,000 千円	70,000 千円																						

4	となみ野りんご (雄神りんご)	庄川の東側、庄東丘陵のふもとの雄神地区に位置し、平成9(1997)年より複合経営の一環として、りんご栽培を行っている。庄川扇状地の適度な水はけと寒暖差などの自然環境を活かして生産されるりんごは、完熟させた状態で収穫することから、酸味と甘さのバランスが取れたジューシーな味わいが特徴で加えて、生産履歴簿の100%記載とGAPシート(農業生産工程管理)を記帳し、「安全・安心」に重点をおいた生産を行っている。直売所などでの販売のほか、市内福祉施設や地元保育所園児などを招いて、りんご狩りを実施するなど、地域に根ざした取組みを行っている。	○	事業者 雄神農産株式会社 																				
5	庄川おんせん 野菜	「庄川おんせん野菜」は、庄川清流温泉の温泉水を肥料として与え、生育を促し、うま味を引き出している野菜のこと。種類は豊富で、トマト、小松菜、カブ、キャベツ、ショウガ、シュンギク、水菜をはじめ、様々な野菜が育てられている。平成26(2014)年から野菜の栽培を始め平成30(2018)年から加工品の生産も実施し、順調に売上げを延ばしている。 庄川温泉郷の宿泊施設を中心に「温泉で身体の外からも中からも健康に」をテーマに地元ならではの食材として提供し、県内外からの多くのお客様に喜ばれている。  	○	(庄川峡観光協同組合調べ) <table><tr><td colspan="2">生産者数</td></tr><tr><td colspan="2">年間を通して安定供給できるよう、技術力の高い生産者を増やすことが課題。</td></tr><tr><td>2014(H26)</td><td>2024(R6)</td></tr><tr><td>法人 1</td><td>法人 1</td></tr><tr><td>個人 2</td><td>個人 2</td></tr></table> <table><tr><td colspan="2">新規生産者数</td></tr><tr><td colspan="2">2015(H27)に個人が増えた以来、新規は0</td></tr><tr><td>2024(R06)</td><td>0</td></tr><tr><td>2023(R05)</td><td>0</td></tr><tr><td>2022(R04)</td><td>0</td></tr></table> 	生産者数		年間を通して安定供給できるよう、技術力の高い生産者を増やすことが課題。		2014(H26)	2024(R6)	法人 1	法人 1	個人 2	個人 2	新規生産者数		2015(H27)に個人が増えた以来、新規は0		2024(R06)	0	2023(R05)	0	2022(R04)	0
生産者数																								
年間を通して安定供給できるよう、技術力の高い生産者を増やすことが課題。																								
2014(H26)	2024(R6)																							
法人 1	法人 1																							
個人 2	個人 2																							
新規生産者数																								
2015(H27)に個人が増えた以来、新規は0																								
2024(R06)	0																							
2023(R05)	0																							
2022(R04)	0																							

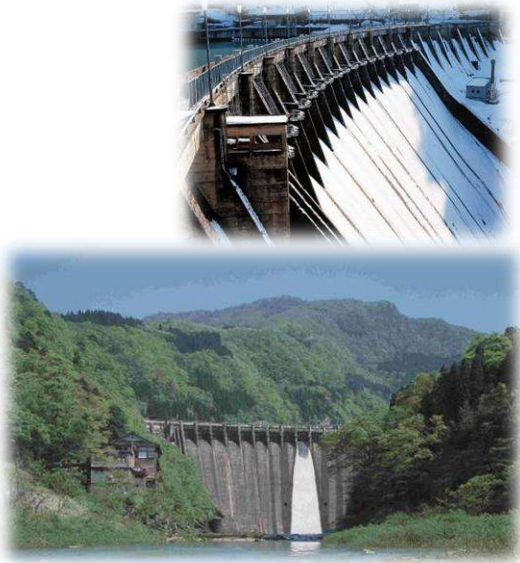
6	金屋石	庄川の右岸、合ロダムから小牧発電所対岸の付近一帯で採掘される石材で、金屋の石工集団が採掘したので金屋石と呼称される。 その石質は、純良な緑色凝灰岩であるため細工がしやすく、比較的弾力性に富み、建築用材として多く用いられるだけではなく、神社や寺院の狛犬燈籠などをはじめ、各種装飾用にも好評を博してきた。古くは、加賀藩主前田利常が金沢城の再建に金屋石の石管を用いたとされている。現在も緑色凝灰岩ならではの温かみのある緑色を生かして、様々な建築だけでなく、コースターなどの製品として活用されている。 	○	(金屋石を語る会調べ) 売上高 温泉浴場の湯口、住宅玄関の敷石、コースターなど <table><tr><td>2024(R06)</td><td>150,000 円</td></tr><tr><td>2023(R05)</td><td>120,000 円</td></tr><tr><td>2022(R04)</td><td>101,370 円</td></tr></table> 	2024(R06)	150,000 円	2023(R05)	120,000 円	2022(R04)	101,370 円								
2024(R06)	150,000 円																	
2023(R05)	120,000 円																	
2022(R04)	101,370 円																	
7	庄川の鮎	庄川の鮎は、小ぶりで美味しいとイメージが良く、古くから砺波市内の庄川沿いの旅館や飲食店で提供されてきた。平成 1 4 (2002) 年には、そのブランドイメージの確立を目的に旧庄川町制 5 0 周年事業記念事業の目玉イベントとして庄川河川敷パットゴルフ場横にて「第 1 回庄川あゆまつり」が開催された。その後、平成 2 7 (2015) 年に場所を道の駅庄川に移し第 2 ～ 4 回まで行った。 令和 4 (2022) 年に庄川で捕れた「天然鮎」と天然遡上してきた鮎を親として庄川の伏流水で育てた「生粋の庄川鮎」を庄川鮎として砺波市がブランド認定した。 		(HP 調べ) 提供店 砺波市内には提供する飲食店は多数ある。主な店舗のみ記載 2024(R6)現在 <table><tr><td>鮎や</td><td>ふかまつ</td></tr><tr><td>魚安</td><td>湯谷亭</td></tr><tr><td>川金</td><td>鮎の里</td></tr><tr><td>草の家</td><td>ふなの里</td></tr><tr><td>幸ずし</td><td></td></tr><tr><td>三楽園</td><td></td></tr><tr><td>新明や</td><td></td></tr></table> 	鮎や	ふかまつ	魚安	湯谷亭	川金	鮎の里	草の家	ふなの里	幸ずし		三楽園		新明や	
鮎や	ふかまつ																	
魚安	湯谷亭																	
川金	鮎の里																	
草の家	ふなの里																	
幸ずし																		
三楽園																		
新明や																		

8	庄川清流温泉	「庄川清流温泉」は、掘削工事で平成4(1992)年に砺波市庄川町青島地内にて湧出した温泉のことで、その温泉水はカルシウム、マグネシウムが非常に豊富に含まれる“硬水”でいわゆる、美肌の湯（身体がポカポカ、お肌ツルツルになる）である。 この含有量は、著名な温泉地の温泉と比べてみても非常に顕著な数字となっており、特有の泉質といえる。 庄川泉源(株)と庄川峡観光協同組合は、この温泉の豊富なミネラルを健康維持に効果的と捉え、病気になる前の「未病対策」を軸にした観光振興を進め、庄川地域を「現代の湯治場」として魅力を発信している。 	(庄川泉源(株)調べ) 温泉成分 イオン(マグネシウム、カルシウム)の含有量が多く、著名な温泉と比較し数百倍の差がある場合もある。 分析数値 2022(R04) 泉温(湧出地): 22.5℃ 泉質: ナトリウム-塩化物・炭酸水素塩温泉(高張性、中性、低温線) 温泉成分表 単位: mg/L <table><tr><td rowspan="3">主要陽イオン</td><td>ナトリウム</td><td>1,943</td></tr><tr><td>マグネシウム</td><td>283</td></tr><tr><td>カルシウム</td><td>66</td></tr><tr><td rowspan="3">主要陰イオン</td><td>炭酸水素</td><td>2,499</td></tr><tr><td>硫酸</td><td>506</td></tr><tr><td>塩素</td><td>2,757</td></tr><tr><td rowspan="3">その他</td><td>鉄(Ⅱ)</td><td>2.8</td></tr><tr><td>遊離二酸化炭素</td><td>49</td></tr><tr><td>PH</td><td>7.7</td></tr></table>	主要陽イオン	ナトリウム	1,943	マグネシウム	283	カルシウム	66	主要陰イオン	炭酸水素	2,499	硫酸	506	塩素	2,757	その他	鉄(Ⅱ)	2.8	遊離二酸化炭素	49	PH	7.7
主要陽イオン	ナトリウム	1,943																						
	マグネシウム	283																						
	カルシウム	66																						
主要陰イオン	炭酸水素	2,499																						
	硫酸	506																						
	塩素	2,757																						
その他	鉄(Ⅱ)	2.8																						
	遊離二酸化炭素	49																						
	PH	7.7																						

(2) 地域資源的な施設の状況

一級河川「庄川」の恩恵にあずかり、地域内には「水」に関連する施設が多数存在している。

N o	品 目	説 明	状 況
1	小牧ダム	第1次世界大戦後に、富山県氷見市出身の実業家浅野総一郎が庄川流域での発電事業計画をすすめ、大正14(1925)年小牧ダム建設に着手、5年の歳月をかけて昭和5(1930)年に完成させた。 庄川には数多くの発電専用ダムが設置されているが、その中で一番最初に完成したダムである。堤高79.25m、堤長300.84mで17門の排水ゲートを持つ。使われたセメント総量は91,800t。セメントなどの大量の資材運搬用に加越線青島駅から専用軌道として、敷設された軌道はダム完成後には、流木運搬や「東洋一」と謳われたダムを見学する観光客の	(HP調べ) 登録情報 2001(H13) 土木学会選奨土木遺産 2002(H14) 国登録有形文化財(河川ダムとして全国で初めて登録) 2007(H19) 近代産業遺産 2030(R12)に竣工 100周年を迎える。

		輸送にも活用され13年間（1926(T15)～1938(S13)）、青島地区から鉄道が走った。ダム竣工から90年以上が経過しているが、その存在感は今も変わらず、ゲートからの放流風景は壮観で、今も“東洋一”の風格を偲ぶことができる。 大正9(1920)年の庄川地域の人口は6,150人であったが、ダム建設が始まった大正14(1925)年には、約1.3倍の8,094人となり、増加率は過去最高である。それに合わせるように、「庄川峡観光協同組合」が誕生するなど庄川地域のこれまでの発展は、このダムを抜きにしては語れない。 	管理者・所有者 関西電力株式会社
2	庄川合口堰堤 (合口ダム)	農業用水の取り入れ口を合わせたので「合口ダム」と呼ばれている。水力発電も行っており、ダム施設の管理は関西電力(株)が富山県より使用許可を受けて行っている。 昔、日照りには灌漑水が欠乏し、洪水となれば破壊流失し、その被害は甚大で早くから用水の集約(合口化)の必要性が認識され、昭和9(1934)年に工事に着手し昭和14(1939)年に完成させた。 	(HP調べ) 登録情報 我が国屈指の大扇状地を潤し、穀倉地帯の近代化を支えたとして2004(H16)に「国登録有形文化財」に登録された。

3	庄川峡遊覧船	庄川峡の小牧ダム湖にある「小牧港」から「秘境の一軒宿 大牧温泉観光旅館」への唯一の交通手段でもあり、県定公園に指定されている庄川峡を周遊する観光遊覧船でもある。 船上からは春の桜と新緑、夏の青々とした水面、ヤマブキやナラが色づく秋、そして深々と静まり返る冬の雪景色など四季折々の溪谷美が満喫できる。また、数多くの水鳥のバードウォッチングや雨の日には、もやがかかった山水画のような景観を楽しめる。 湖上遊覧としては珍しく、冬期間も運航し、雪景色の山々を眺めながらの遊覧はまた一興。 今や外国人観光客や冬の絶景を求めるインスタグラマーなどに人気である  	(庄川遊覧船(株)調べ) <table><tr><th colspan="2">乗船数</th></tr><tr><td colspan="2">2008(H20)年から短時間遊覧をはじめ、乗船数が2016(H28)には 28,000 人台となり、2018(H30)には海外客が国内客を上回った。2020(R02)、2021(R03)が大幅に減少しているのはコロナ感染症拡大によるもの。</td></tr><tr><td>2024(R06)</td><td>40,347 人</td></tr><tr><td>2023(R05)</td><td>30,938 人</td></tr><tr><td>2022(R04)</td><td>13,612 人</td></tr><tr><th colspan="2">最大乗船年度</th></tr><tr><td rowspan="2">2024(R06) 40,347 人</td><td>海外 28,211 人</td></tr><tr><td>国内 12,136 人</td></tr><tr><th colspan="2">最小乗船年度</th></tr><tr><td rowspan="2">2008(H20) 1,248 人</td><td>海外 464 人</td></tr><tr><td>国内 784 人</td></tr><tr><td colspan="2">【参考】 短時間遊覧の乗船 2024(R06) 40,347 人 (内、海外 28,211 人)</td></tr></table>	乗船数		2008(H20)年から短時間遊覧をはじめ、乗船数が2016(H28)には 28,000 人台となり、2018(H30)には海外客が国内客を上回った。2020(R02)、2021(R03)が大幅に減少しているのはコロナ感染症拡大によるもの。		2024(R06)	40,347 人	2023(R05)	30,938 人	2022(R04)	13,612 人	最大乗船年度		2024(R06) 40,347 人	海外 28,211 人	国内 12,136 人	最小乗船年度		2008(H20) 1,248 人	海外 464 人	国内 784 人	【参考】 短時間遊覧の乗船 2024(R06) 40,347 人 (内、海外 28,211 人)	
乗船数																									
2008(H20)年から短時間遊覧をはじめ、乗船数が2016(H28)には 28,000 人台となり、2018(H30)には海外客が国内客を上回った。2020(R02)、2021(R03)が大幅に減少しているのはコロナ感染症拡大によるもの。																									
2024(R06)	40,347 人																								
2023(R05)	30,938 人																								
2022(R04)	13,612 人																								
最大乗船年度																									
2024(R06) 40,347 人	海外 28,211 人																								
	国内 12,136 人																								
最小乗船年度																									
2008(H20) 1,248 人	海外 464 人																								
	国内 784 人																								
【参考】 短時間遊覧の乗船 2024(R06) 40,347 人 (内、海外 28,211 人)																									
4	庄川大仏	世界遺産の五箇山や白川郷へ通じる国道 156 号沿いの光照寺境内にある。正式名は「十万納骨大仏」といい、昭和 5 (1930) 年着工、昭和 8 (1933) 年に完成した。製作者は、旧小杉町 (現在の射水市) の名匠 竹内源造 (左官・鍍絵職人) 鉄筋コンクリート造りで、全体が薄緑色に塗られており、10 万人分の遺骨が塗り込められているとのこと。 高岡市の高岡大仏、射水市の小杉大仏と並んで「富山三大大仏」の一つに数えられている。 小牧ダム、庄川合口堰堤(合ロダム)、木村産業(株)事務所などコンクリートで隆盛した庄川地域の歴史を今に伝える文化遺産といえる。	2011(H23)・市指定 砺波市庄川町金屋 1982(S57)補修 2014(H26)補修 																						

5	瓜裂清水	昭和31(1956)年に庄川町指定文化財となり、昭和60(1985)年には、環境庁(当時)選定の「全国名水百選」に選ばれた清水である。昭和61(1986)年には、「とやまの名水」に選定、昭和62(1987)年には「史跡名勝」(現在は「名勝」)として再指定された。平成29(2017)年ごろに一時、湧水量が減ったが、令和元(2019)年に有志が湧水箇所周辺を工事し復活させた。 清水周辺には、綽如上人御旧蹟保存会(昭和12(1937)年設立)が、古風茶亭式の東屋一棟を建てられ休憩所とし、南壁面(崖)に不動明王などの石仏を配し、綽如上人の遺徳を偲んでいる。 なお、成分に含まれるミネラルであるマグネシウムとカルシウムの含有率が、最も吸収率が高く健康維持に良い作用が働くとされる比率2対1に富山県内に8箇所ある「とやまの名水」の中で最も近いという特性を持っている。また、隣接する南砺市井波地域の閑乗寺公園近くには、平成20(2008)年に「平成の名水百選」に選定された「不動滝の霊水」もあり、瓜裂清水がある周辺は、湧水に恵まれた地域となっている。	(HP_水のソムリエ調べ) <table><tr><th colspan="2">水成分</th></tr><tr><td>マグネシウム</td><td>2.8</td></tr><tr><td>カルシウム</td><td>8.4</td></tr><tr><td>硬度</td><td>32.4</td></tr></table> 参考 健康維持に良いとされるミネラル黄金比 2:1 1位 瓜裂清水 3:1 2位 穴の谷の霊水 3.5:1 3位 弓の清水 3.6:1 4位 黒部川扇状地湧水群 3.9:1 5位 いたち川の水辺と清水 5.6:1 6位 不動滝の霊水 8.8:1 7位 行田の沢清水 15:1 8位 立山玉殿の湧水 23:1	水成分		マグネシウム	2.8	カルシウム	8.4	硬度	32.4		
			水成分										
			マグネシウム	2.8									
			カルシウム	8.4									
硬度	32.4												
													
6	庄川水記念公園	砺波チューリップ公園と並ぶ砺波市の2大公園の1つであり、庄川地域民にとってシンボリックな存在の施設。伝統的工芸品や特産品の展示、販売などの観光の拠点施設として、昭和59(1984)年に庄川特産館、平成元(1989)年に庄川ウッドプラザ、平成12(2000)年には庄川ふれあいプラザが公園内に設置され市が運営してきたが、指定管理者制度の導入に伴い民間業者に移し、平成19(2007)年からは『庄川峡観光協同組合』が運営者となっている。 春には「庄川峡桜まつり」「庄川木工まつり」夏には「庄川水まつり」秋には「庄川ゆずまつり」を開催し、毎年1月7日には公園内の庄川河畔にて厄年を迎える金屋神明宮の氏子が「厄払い鯉の放流」を行うことから、園内の「鯉恋の宮」は鯉に願をかけて恋をかなえるパワースポットになっている。	(庄川峡観光協同組合調べ) <table><tr><th colspan="2">客数</th></tr><tr><td colspan="2">2021(R03)は、コロナ禍で減少しているが、庄川ウッドプラザの飲食部門を強化する等し、順調に集客している。</td></tr><tr><td>2024(R06)</td><td>39,953 人</td></tr><tr><td>2023(R05)</td><td>36,862 人</td></tr><tr><td>2022(R04)</td><td>45,326 人</td></tr></table>	客数		2021(R03)は、コロナ禍で減少しているが、庄川ウッドプラザの飲食部門を強化する等し、順調に集客している。		2024(R06)	39,953 人	2023(R05)	36,862 人	2022(R04)	45,326 人
			客数										
			2021(R03)は、コロナ禍で減少しているが、庄川ウッドプラザの飲食部門を強化する等し、順調に集客している。										
			2024(R06)	39,953 人									
2023(R05)	36,862 人												
2022(R04)	45,326 人												
													
													

7	松原遺跡	庄川左岸の扇頂部では三段の河岸段丘が認められ、その最下位に位置する示野段丘上の標高103mにある遺跡で縄文土器が発掘される。範囲は広く、示野神社前の国道156号あたりから松原墓地まで、東西約360m・南北約280mにおよび、その大半が宅地と畑になっている。 縄文人は、山と川の恵みにあやかれるうえ、ちょうど扇状地の扇状部にあたるため、庄川が暴れて氾濫する心配もないため、住んだと考えられる。 この遺跡は大正初期から知られており、戦後土地の開発が進むにつれ個人や学生などによって熱心に遺物の発掘や採集が行われ、復元された土器が多く残っている。その後試掘を含め、昭和43(1968)年、48(1973)年、49(1974)年、平成7(1995)年、10(1998)年の5度、異なる地点の発掘調査が行われ、縄文中期(約4,000～5,000年前)前葉から後葉にかけての、多数の遺構や大量の遺物が出土した。	1987(S62)年・市指定 砺波市庄川町示野・金屋 地内 												
8	道の駅庄川	砺波市(旧庄川町)の第三セクター「庄川開発(株)」がレストラン及び物販施設と商業・住宅施設群(リプロタウン)を備えたエリア「エントランスタウン庄川」を整備し、平成3(1991)年に開業。その中のレストラン及び物販施設に観光案内所等を増設し、道の駅庄川となった。平成29(2017)年から庄川峡観光協同組合に運営が移管され、リニューアルオープンした。新設したレストランでは郷土料理の「よごし」や特産品の「ゆず」を使用したメニューのほか、自家焙煎珈琲を提供している。 優れた立地条件にあることが魅力の一つであり、石川県金沢市、岐阜県飛騨高山市、富山県氷見市と、北陸三県の魅力的な場所から、ほぼ同時刻でたどり着ける場所であるほか南砺市井波地域とも隣接し、ハブ的要素を持ち合せている。そばには縄文人も安心安全に住んでいた「松原遺跡」があることからわかるように水害に強く、地域住民の災害時の避難所としての機能も有しているなど新たな地域の核施設として、期待される施設である。	(庄川峡観光協同組合調べ) <table><tr><th colspan="2">客 数</th></tr><tr><td colspan="2">リニューアルオープン以来、客数を伸ばしている。</td></tr><tr><td colspan="2">2020(R02)、2021(R03)、の コロナ禍でも順調。</td></tr><tr><td>2024(R06)</td><td>93,461 人</td></tr><tr><td>2023(R05)</td><td>90,915 人</td></tr><tr><td>2022(R04)</td><td>86,813 人</td></tr></table>  	客 数		リニューアルオープン以来、客数を伸ばしている。		2020(R02)、2021(R03)、の コロナ禍でも順調。		2024(R06)	93,461 人	2023(R05)	90,915 人	2022(R04)	86,813 人
客 数															
リニューアルオープン以来、客数を伸ばしている。															
2020(R02)、2021(R03)、の コロナ禍でも順調。															
2024(R06)	93,461 人														
2023(R05)	90,915 人														
2022(R04)	86,813 人														

(3) 地域伝統等行事の状況

ア 厄払い鯉の放流について

開催日：1月3日 ※令和7年より

時 間：厄年祈祷大祭 午前10時30分～正午頃 / 鯉の放流 正午頃～

場 所：金屋神明宮、厄払い鯉の放流場（庄川水記念公園内）

この祭りは、文化13(1816)年3月26日に行われた金屋神明宮の遷宮の際に、鯉を神饌として供えた際、長時間の神事が終了してもまだ鯉が生きていたことから、この鯉の生命力にあやかるとともに身の厄を託し、御神酒を飲ませて庄川に放流したのが起源とされている。

行事では、厄年にあたる老若男女（男性は、数え年7、13、25、42、61歳、女性は、数え年7、13、19、33、61歳）が「長寿」「学業成就」などを願い、御神酒を与えられた鯉に一人ひとりが手を触れ、庄川へ放流している。明治の初めごろに開催日が1月7日になり、令和7年から1月3日に変更され、今日にいたるまで金屋神明宮の伝統行事として毎年続けられています。

年／参拝者		25歳	33歳	42歳	還暦
令和	7年	3人	1人	2人	5人
	5年	6人	2人	4人	10人
平成	30年	1人	2人	12人	23人
	20年	4人	10人	6人	43人
	10年	25人	7人	7人	20人

表5 金屋神明宮厄払参拝者推移【10年ごと及び令和4年1月現在】



イ 獅子舞について

庄川地域には、かつて13もの獅子舞が存在していたが、年々活動を休止する団体が増えてきている。獅子舞のタイプは、胴幕の中へ獅子頭・尻尾を含めて5～6人の大人が入る「百足獅子」の砺波獅子で庄川町古上野だけが、二人立ちで肩車・でんぐり返しなど、アクロバットな舞をするのが特徴の金蔵獅子です。

地区	No	集落名	日にち	場所	団体名
東山見	1	庄川町湯山	休止中	牛嶽神社	湯山獅子方若連中
	2	庄川町湯谷	休止中	牛嶽神社	湯山獅子方若連中
	3	庄川町小牧	休止中	八幡宮	—
	4	庄川町金屋	9月第3日曜日	金屋神明宮	金屋青年会
青島	5	庄川町青島（上村）	3月第2土曜日	青島神明宮	青島青年信義会
			9月第2土曜日		
	6	庄川町青島（下村）	3月第2土曜日	青島神明宮	青島青年至誠会
			9月第2土曜日		
雄神	7	庄川町庄	4月29日	雄神神社	庄青年会・庄獅子方若連中
	8	庄川町金剛寺	休止中	阿羅町神社・神明宮	金剛寺獅子方若連中
	9	庄川町三谷	11月3日	水宮社・稲荷神社	三谷獅子方若連中
種田	10	庄川町天正	10月第1土曜日	神明宮	天正獅子方若連中
	11	庄川町五ヶ	休止中	五ヶ神社	五ヶ獅子方保存会
	12	庄川町古上野	10月第4土曜日	五ヶ堂神社	ねんごろ会
	13	庄川町高儀新・筏	10月第4土曜日	五ヶ堂神社	高儀新・筏獅子舞保存会

表6 庄川地域の獅子舞【令和4年現在】



エ 庄川の弁財天社について

市文化財：指定日 昭和62(1987)年3月30日

場 所：砺波市庄川町庄

言い伝えによると、天正13年(1585)の大地震で庄川の流れが大きく変わり、当時この地に鎮座していた雄神神社の境内地を残して周辺の村々が流されるという災害があった。

時の藩主前田利長公が自らのその状況を踏査されたとき、激流の中に樹木が繁茂する島（境内地）を見て不思議に思われ「水の神」である弁財天も祀るよう指示された。同社の由緒によると、寛文3(1663)年の大洪水では本殿と拝殿の間に新しく水路ができ、本殿は遷座を余儀なくされ、現在の庄川右岸山麓に移転した。このとき庄川の中州となった拝殿跡に庄川の守り神として雄神神社の御分霊と弁財天を祀る「元雄神神社」が創建された。毎年7月25日には氏子をはじめ用水関係者が参列する例祭があり特殊神事としては33年毎に御開帳大祭が盛大に執り行われています。



エ 五ヶ種チョンガレ踊りについて

市文化財：指定日 昭和62(1987)年3月30日

場 所：砺波市庄川町五ヶ

チョンガレの由来は、念仏聖の願人坊主が鉦をたたき諸国を歩いた音曲ともいわれていますが、「ちょろける」「ちょうける」から来ているともいわれています。砺波地方には特に風刺即妙のチョンガレ節が多く残っています。

五ヶ地区のチョンガレは俗に「種チョンガレ」といわれ、その五ヶ地区は種田地区にあり、種もみ生産地として知られており、全国へ出荷されています。この地区の盆踊りには、決まって、この五ヶ種チョンガレが最初に歌われます。



カ 庄川水まつりについて

開催日：通年

場 所：砺波市庄川町金屋

庄川地域の水の豊かさと素晴らしさ、水によって育まれた歴史や文化を伝えるイベントである。

昭和60(1985)年の第1回庄川水まつりは、瓜裂清水が全国名水百選に選定されたことにちなみではじまり、庄川水記念公園を中心に現在でも盛大に開催されています。

流送の歴史を体験できる流木乗り選手権をはじめとして、『水の町 庄川』を発信するため、水資源を活用したさまざまな企画が8月第1土曜・日曜に行われてきたが、令和6(2024)年から“まちづくり要素”を強くして、通年開催になりました。



オ 庄川観光祭について

開催日：6月第1土曜・日曜日

場 所：砺波市庄川町

昭和28(1953)年に庄川町制一周年を記念して庄川町観光祭が開催され、庄川小唄の街頭練り踊り、夜高あんどんの練り回しなどの行事が行われました。その後、昭和34(1959)年から県下のトップを切る夏季の催しとして、庄川峡花火大会が観光祭の行事に取り入れられ、夜高行燈と共に華やかな光のファンタジーを展開し、庄川峡など地域の資源(自然、文化)を県内外へPRしています。令和元年、一度だけ東山見・青島・雄神・種田地区の大作行燈、中小行燈、すべての行燈が会場にならぶ“行燈の大谷大回廊”が行われました。



ウ 夜高行燈について

開催日：6月第1土曜・日曜日 ※庄川観光祭に合わせて行われる

場 所：砺波市庄川町

砺波地方でヤスゴト・ヤスンゴトといわれる田祭りは田植え終了を祝う行事で、6月10日・11日前後に行われます。この日、子供たちが夜高行燈を掲げて集落を巡り、五穀豊穡と豊年万作を祈念する。砺波地方では庄川をはじめ、出町や津沢で盛大な夜高祭りが行われているが、庄川はその皮切りです。

庄川夜高の発祥については、諸説あるが雄神地区で明治20年頃から田楽行燈として始められたとの言い伝えがあります。のちに金屋地区と青島地区が福野の夜高行燈をまねて大型の夜高行燈を制作し始めました。戦中戦後を通して一時廃れましたが、昭和28(1953)年に庄川町町制施行一周年事業として実施された観光祭の夜の行事として復活しました。昭和37(1962)年には休止状態となり、昭和47(1972)年に再興し、現在まで観光行事として行われています。

令和5年度は「コロナ感染症拡大」で、休止した団体の多くなりました。

地区	No	団体名	自治会名	行燈種別			
				大	中	小	田楽
東山見	1	金屋清流会	小川原、原出、中屋敷	○	○		
	2	舟誠会	舟戸		○		
	3	京坂若連中	京坂	○			
	4	畑直二十日会	畑直		○休止		
	5	清友会	西野、清水		○		
	6	南部野若連中	南部野	○	○		
	7	庄新会	金屋新	○	○		
青島	8	一本橋クラブ	中之島1				○
	9	中之島若連中	中之島1、中之島2	○	○	○	
	10	東部松栄会	東部(松川除)	○	○		
	11	中路クラブ	中部	○	○		
	12	西部西友会	西部	○	○		
	13	下村若連中	下村	○	○		
	14	示野青年会	示野		○		
	15	サンパチ会	青島新町		○		
雄神	16	雄神小若連中	雄神地区全自治会			○休止	○休止
	17	三谷 母親・児童クラブ	三谷			○休止	○休止
種田	18	種田地区 母親・児童クラブ	種田地区全自治会				○
	19	種田地区 老人クラブ	種田地区全自治会				○

表7 庄川地域の夜高行燈【令和7年6月現在】

4 公共施設の再編の状況

砺波市公共施設再編計画に示されている庄川地域内の公共施設は、次のとおりです。

方向性	実施時期				
	短期(R2～7)	短中期(R2～17)	中期(R8～17)	中長期(R8～27)	長期(R18～27)
譲 渡	(済)市閑乗寺夢木香村	(済)市立雄神保育所	市雄神集会センター (砺波市立雄神公民館)		
	(済)市農村環境改善湯 山サブセンター	(済)市立種田保育所	市種田コミュニティセンター (砺波市立種田公民館)		
	市生きがいセンター庄川 高砂会館	(済)市立東山見児童館			
	(済)庄川民芸館収蔵館				
	旧フルーツ村休憩施設				
	中之島公民館横住宅				
	旧市生きがいセンター庄 川高砂会館				
廃止等		松村外次郎記念庄川美術館			
		庄川水資料館			
		(済)市庄川勤労者体育センター			
		庄川河川敷公園パットゴルフ 場クラブハウス			
		市庄川子育て支援センター			
		(済)市立青島児童館			
あり方 検 討		(済)市立東山見公民館		市庄川農村環境改善 センター	市庄川生涯学習センタ ー
		(済)市立青島公民館		庄川ウッドプラザ	市立庄川図書館
		(済)市立青島保育所			庄川ふれあいプラザ
		(済)市立雄神児童館			市雄神体育館
					市庄川親雪体育館
					庄川水記念公園[舟戸公 園ゲートと展望台(ほか)]

※ 庄川小学校、中学校は時期未定

[庄川地域内で再編された施設] 下線の施設【廃止(解体、譲渡(地域))】**決定**】

2023(R5)市農村環境改善湯山サブセンター【解体】

2022(R4)庄川民芸館収蔵館【譲渡(民間)】、青島・種田保育所【譲渡(地域)】

2021(R3)庄川勤労者体育センター【解体】

2020(R2)砺波市閑乗寺夢木香村【譲渡(民間)】、2018(H30)種田児童館【譲渡(地域)】

2015(H27)庄川まちかどギャラリー蔵【譲渡(民間)】、2015(H27)庄川若者の館(F スポット)【譲渡(地域)】

表8 砺波市公共施設再編計画に掲載されている庄川地域の公共施設【令和7年3月現在】

5 各種まちづくりの状況

庄川地域内では、地域内の活性化を目的に各種団体でまちづくり活動が近年実施されてきました。その一部は、次のとおりです。

(1) 砺波庄川まちづくり協議会主催等

ア 各種団体の状況報告（2020(R02)実施） 参照 別冊資料 No2

154 団体回答（内訳：振興会 4、自治会 31、各種団体 119）

各種団体の活動状況をアンケート形式で調査し、各団体の現状を把握後、先に地域活性化のために洗い出した 6 つの課題（教育支援、未婚対策、空き家対策、高齢者対策、あんしん・安全対策、観光・産業支援）を解決に向けた具体的な行動・活動を立案するために調査した。

イ まちづくりを語る会（2018(H30)実施） 147 名参加 参照 別冊資料 No3

地域で課題として取組んできた、地域振興事業等について、庄川生涯学習センターを会場に 4 地区合同で発表し、庄川地域内の情報共有を図った。

ウ 人口減少問題学習プログラム(2016(H28)実施) 参照 別冊資料 No4

(ア) まちづくり学習会 277 名参加／4 回

砺波市が実施した総合計画の説明会“となみいーていんぐ”を参考に学習会を庄川 4 地区でそれぞれ開催した。2 部構成で 1 部は、各地区の現状を認識するため人口動態等を説明し 2 部は、砺波庄川まちづくり協議会の観光・産業部門である「庄川峡観光協同組合」が実施している地域活性化ビジョンの会等の事業内容を報告しその後、意見交換会を実施した。

(イ) ブレインストーミング 116 名参加／5 回

庄川地域の人口減少の現状及び問題の打開策をブレインストーミング方式で討議し、参加者が認識を深めた。

エ 交通まちづくり(2022(R04)実施) 参照 別冊資料 No10

(ア) 井波・庄川地域の公共交通を考えるワークショップ 20 名参加

公共交通の視点からよりよい地域づくりを考えようと組織された呉西地区交通まちづくり市民会議が、井波・庄川地域から公共交通のあり方を考えようと井波モビリティ協議会と砺波庄川まちづくり協議会が共同主催者となり、ワークショップを開催した。

開催日：令和 4 年 5 月 28 日 場所：南山見交流センター 内 容：グループ討議（ワークショップ）

(イ) 交通まちづくり公開講座 60 名参加

上記（ア）のワークショップから出された現状と課題をより多くの住民へ周知するため呉西地区交通まちづくり市民会議、井波モビリティ協議会及び砺波庄川まちづくり協議会が共同主催者となり、公開講座を開催した。

開催日：令和 4 年 9 月 11 日 場所：井波社会福祉センター

内 容：講座名『古利・湯のまち 鉄道につなごう』

①井波・庄川地域の現状報告 ②講演（名古屋大学大学院 加藤 博和教授） ③パネルディスカッション

(ウ) 令和4年度 富山県中山間地域等買い物弱者対策モデル実証

上記(ア)、(イ)を開催し、井波・庄川両地域の現状と課題を認識、交通のあり方を考える下地が出来上がってきたことから両地域にある商店、病院、医院、入浴施設等の相互利用を支援する目的で両地域を結ぶルートの定時定路線バス(呼称:月金バス)を運行した。

結果は、利用者238名(約15人/日)、高齢者福祉施設「ゆずの郷やまぶき」、商業施設「アスモ」、寺院「西蓮寺」、温浴施設「となみ野庄川荘」からの乗降者数が上位となった。

運行車両:ジャンボタクシー(定員:9名) 企画運営:一般社団法人 イドウラボ

後援:井波モビリティ協議会、一般社団法人 ジソウラボ、南砺市商工会井波支部、庄川町商工会、砺波庄川まちづくり協議会、呉西地区交通まちづくり市民会議

利用料金:無料 実施期間:令和5年1月6日～2月27日(運行曜日・本数:月・金曜日に1日3便を運行(合計16日間))

(エ) 令和5年度 富山県中山間地域等買い物弱者対策モデル実証

令和4年度に実施した井波、庄川両地域を結ぶルートの定時定路線バス(呼称:月金バス)の金曜日運行を休日である土曜日に換え、また一部ルート変更し運行した。

運行車両:ジャンボタクシー(定員:9名) 企画運営:一般社団法人 イドウラボ

利用料金:300円/回 実施期間:令和6年1月6日～2月26日(運行曜日・本数:月・土曜日に1日4便を運行(合計16日間))

オ 庄川水記念公園再整備への提案(2022(R04)から実施)

再整備を契機に庄川峡を有する地域ならではの特性(資源)は、『観光』であることを再認識し『地域の旗しるし(自然環境×健康環境＝“地域の活性化(新しい観光等)”』を掲げ、市に地域が目指す方向性を提案した。

カ 庄川地域まちづくり調査研究市民報告会(2023(R05)実施) 参照 別冊資料 No12

地域で暮らす人の生活水準や生産機能の維持向上のためにまちづくり計画策定に向けて調査研究を実施し、地域の戦略の方向性として『幸せ循環し続ける“水の郷”』のビジョンを掲げ、拠点となる施設が『庄川水記念公園』であることを2部に分けて住民250人へ報告した。

開催日時:令和6年2月18日(日) 19時から21時

■報告1 昭和55年度策定の水記念公園基本構想からの報告

■報告2 客観的データから見る庄川地域のまちづくりの方向性

キ 持続可能な魅力ある田園地域創出実証実験事業 参照 別冊資料 No13

令和6、7年度の2カ年に渡り、富山県の事業採択を受けて次のことを実施し、ブランドステートメント『SHOGAWA TIME “時をこえ、未来を育てる”』およびデザインガイドラインを策定した。

(ア) 令和6年度 ビジョン作成支援コース

砺波庄川まちづくりセミナー(2024(R06)実施)

庄川地域内問わず、30～50代の責任世代を募集し、ワークショップを繰返し、既に令和5年度に策定したビジョン「春夏秋冬の自然・人の彩りに恵まれ、幸せを循環し続ける”水の郷”」のブラッシュアップを図るため、まちづくりの専門家を招き、子どもたちが還ってきたくなる地域になるための思想と手法を全2回のセミナーで学んだ。

■セミナー1回目 「スローシティから考える幸福なまちづくり」 100名参加

日時：令和7年1月18日（土）13：30～14：30

会場：庄川ふれあいプラザ（砺波市庄川町金屋 水記念公園内）

講師：ノンフィクション作家 島村 菜津 氏

■セミナー2回目「水辺のまちづくりから生み出す、にぎわいのある地域づくり」

全国川サミットの発祥の地は庄川地域だった！ 80名参加

日時：令和7年1月25日（土）13：30～14：30

会場：庄川ふれあいプラザ（砺波市庄川町金屋 水記念公園内）

講師：公益財団法人 リバーフロント研究所所属：水循環・まちづくり・防災グループ、
主任研究員 阿部 充 氏

（イ）令和7年度 実証実験支援コース

砺波庄川まちづくり協議会の30～50代の責任世代（水まちづくり委員会）が中心となり、「子どもたちが将来また還ってきたい地域」の実現に向けて、地域の求心力向上・生業創出・関係人口創出を目指した実証実験事業を実施した。富山県の伴走支援のもと、ブランドステートメントの策定・体系化とともに、拠点形成、水辺イベント、ブランディング、次世代育成等の多角的な施策を展開した。

① SDGs 地域共生サロンの開設と多世代交流・商品開発

□交流拠点の開設：庄川水記念公園内に市民活動拠点「SDGs 地域共生サロン」を開設し、子育て世代をはじめとする多世代交流ワークショップやコミュニティカフェ等を年間通じて定期開催した（通算来客数：908名）。

□地域資源を活用した商品開発：地元特産の「庄川おんせん野菜」を活用したスープ（コーンスープ・かぼちゃスープ）や「庄川おんせん野菜シェークリーム」の試作開発・テスト販売を実施し、収益化に向けたデータ収集を行った。

② 次世代（小中高生）主体の取組みと循環（サーキュラーエコノミー）モデルの構築

□シビックプライドの醸成：子どもたちが地域のカッコイイ大人たちと直接関わり原体験を積む機会として、小中学校での出前講演（庄川中・出町中）や「出張こども商店」（雄神・青島）を展開した。

□「水の郷切符」の製作・贈呈：庄川中学校生徒からの提案により、生徒自らアルミ缶回収等で資金を捻出し、地域の職人と協働してヒノキ製の「水の郷切符」を製作し、卒業生へ贈呈した（令和8年3月11日）。

□卒業生の「桜の植樹」：数十年後に切符の素材となることを見据え、庄川小学校卒業生による「桜の植樹」を実施（令和8年3月17日、80名参加）し、中学生から小学生へと連鎖する持続的な循環モデルを創出した。

③ 水辺空間の賑わい創出と伝統文化の再継承（イベント実証）

□水辺イベントの開催：庄川の水辺空間を活用し、火の癒やし効果を活かした「焚火とサウ

ナとピザと」を開催した。また、途絶えた伝統行事の精神を継承・再構築し、水と木のクラフト展「SHOGAWA HANDS」を初開催した（令和7年10月25日、500名来場）。

□水辺環境改善プロジェクト：「GO 美（ゴミ拾い）プロジェクト」、生き物観察会、ミズベリング（水辺で乾杯）等を計8回実施（参加者累計：190名）し、水辺環境の保全と地域資源への愛着を深めた。

【イベント全体実績：年間来客数 1,170 名（目標 300 名を超過達成）】

④ ブランドステートメント策定と地域浸透（ブランディング）

□ブランド体系化：1,200年以上の歴史に由来するプロジェクト名『SHOGAWA TIME SINCE 748』およびブランドステートメント『SHOGAWA TIME “時をこえ、未来を育てる”』を策定した。4つの構成プログラム（くらしづくり、ウェルネス・ネイチャー体験、木と水の文化体験、継続的コミュニティ・サロン）と2つのサブプロジェクト（庄川スターズプログラム、庄川リバーサイドラボ）へと体系化した。

□勉強会・セミナーの実施：ブランド浸透勉強会を年間20回開催（参加者累計：530名）したほか、令和7年8月31日には「砺波庄川まちづくりセミナー」を開催（40名参加）し、有識者講演およびパネルディスカッション（市議・観光協同組合・水まちづくり委員会）を実施した。

⑤ 将来に向けた持続的体制の構築（CSV へのシフト）

□CSV（共創ビジネス）への転換：地域課題解決と事業収益を両立する「CSV」の概念を導入し、ボランティアベースからの脱却を目指す方針を整理した。

□エリアマネジメントの推進：商工会や庄川峡観光協同組合等の主要ステークホルダーと協議を重ね、庄川水記念公園を「実践の舞台」とする方向性を共有した。実証実験を通じて住民自身の自走力とチーム力を高め、持続可能な組織体制の土台を構築した。

（2）庄川峡観光協同組合主催

ア 庄川温泉郷活性化ビジョン（2013（H25）から実施） 参照 別冊資料 No5

平成24（2012）年度に富山国際大学の学生が庄川温泉郷の現地視察を行い、学生の視点で地域を評価する事業を実施。この事業をきっかけとして、庄川峡観光協同組合が中心となり、地域活性化の短期・中期・長期計画を含む「庄川温泉郷活性化ビジョン」を策定し、「地域活性化ビジョンの会」を結成。観光振興を通じて交流人口を増加させ、人々で賑わう地域への再活性化を図ることを目的としている。観光振興は事業者だけではなく、地域全体で推進する必要があることから、地域住民の参加等も呼びかけ、定期的な議論を継続している。

（ア）活動内容

当初は、庄川温泉郷活性化ビジョンに定めた①庄川おんせん野菜、②庄川挽物木地、③着地型観光、④情報発信の4つのテーマ（部会）に分けてスタートし、現在では、①着地型観光・情報発信、②庄川おんせん野菜、③道の駅庄川活性化、④伝統的工芸品活性化の4つの部会にて、部会ごとの課題に対して、課題解決に向けた取り組みを実施している。

本組織は参加者のモチベーションが非常に高く、分科会ごとにリーダー、副リーダーを設け、リーダーを中心に自立した分科会や正副リーダー会議の運営をしている。

(イ) 成 果

主な成果は、次のとおり

- ・リーダーを中心とした自立的・計画的な事業推進の組織体制構築及び地域の担い手となる若手の人材育成。(金屋石を語る会など)
- ・地元特産品(地域資源)を活用した柚子や温泉などの新商品も開発、販売。
ゆずまる、しょうがソフト・ドリンク、庄川おんせん野菜カレーなど。
- ・庄川温泉郷や庄川水記念公園を中心としたマップやリーフレットの制作、配布。
- ・砺波ブランド出願、認定。(庄川おんせん野菜、金屋石)
- ・経済産業省や観光庁の補助金を活用し、道の駅庄川にて「とやまの逸品」と銘打ち販売コーナーの設置やインターネットでのショッピングサイトの構築、庄川温泉郷宿泊施設とのハブ機能構築。

(ウ) 今後の展開

今後も庄川地域の関係機関や地域住民と連携を図り、本計画を実行することで交流人口を増加させ、更に地域外資金を獲得し、地域内で循環させるビジネスモデル構築のための活動を実施する。

エ 庄川水記念公園再整備に関わるトライアル企画(2023(R05)から実施)

砺波庄川まちづくり協議会が行っている庄川水記念公園再整備の提案(2022(R04))に基づき、『庄川峡 焚火とサウナとピザと』と題して庄川合口堰堤(合ロダム)横にて、火が持つ癒やし効果で水辺空間の価値を見いだす実証実験としてのイベントを実施した。

(3) 東山見地区自治振興会主催

ア 東山見みらい会議(2021(R03)実施) 144名参加/3回 参照 別冊資料 No6

東山見地区の望ましい未来像についての話し合い、現地確認を実施して地域の課題を抽出し、5年後を見すえた計画案をつくった。現在、休止中。

(4) 青島地区自治振興会主催

ア 子誕生にお祝い金を贈呈(2022(R04)から実施)

種田地区に続き、人口減少を緩やかにすることを目的に地区独自事業として、出産した世帯に手作り記念パネルとお祝い金5千円の贈呈している。

(5) 雄神地区自治振興会主催

ア 雄神地区活性化プラン(2022(R04)から実施) 参照 別冊資料 No6

地区活性化のために廃止となる雄神保育所の再利用、パワースポットの発信及びデジタル自治会について具体的な取組み内容や推進方法などを「どうする雄神会議」と題して協議し、立案したアクションプランを踏まえた活動を展開。

その1つとして令和6(2024)年に東京大学の「フィールドスタディ型政策協働プログラム」の採択を受け、地域活性化策を学生と地域がともに考えて、雄神地区の魅力と見どころをまとめた紹介マップやSNSとWebで発信する仕組みを構築した。

(6) 種田地区自治振興会主催

ア 第三子誕生にお祝い金を贈呈(2021(R03)から実施)

「育児を応援する地区」をアピールし人口減の抑制を目的に、地区独自事業として、第三子誕生の世帯にお祝い金2万円を贈呈している。

(7) 中学校主催

ア 総合的な学習(2023(R05)、2024(R06)、2025(R07)実施)

総合的な学習の時間を活用し、中学生が自分の住む地域の活性化策を考えた。

□庄川中学校 **参照 別冊資料 No11**

開催日: 3年生実施__令和5年11月30日(木)

開催日: 1年生実施__令和7年1月30日(木)

開催日: 1年生実施__令和8年2月26日(木)

□出町中学校

開催日: 3年生(3年3組)実施__令和7年11月20日(木)、27日(木)

・12月11日(木)に庄川清流温泉の足湯に入り、ゆずドリンクを体験

・12月21日(日)提案のあった“足湯こたつ”を庄川水記念公園で実施

(8) NPO法人 庄川峡わくわく倶楽部主催

ア 植樹・植栽(2013(H25)から実施)

水記念公園から雄神橋の河畔を中心に桜や紅葉の植樹のほか、山吹、レンギョウ、彼岸花、ラッパスイセン、令和5(2023)年から庄川水記念公園周辺に藤棚の植栽を実施した。

イ 草刈り・清掃(2013(H25)から実施)

水記念公園から舟戸橋の河畔を中心に定期的な草刈りやゴミ拾いを実施。

ウ ライトアップ(2017(H29)から実施)

春の時期に夜桜のライトアップを実施。

エ 講演会及びワークショップ(2017(H29)実施) **250名参加**

花と緑による地域活性化のため、「はなまつフラワーパーク 塚本こなみ氏」を講師に講演会及びワークショップを三世代の地域住民を対象に実施した。

6 近隣地域の状況

一級河川庄川水系の地域には経済、文化面など共通することが多くあります。これまで、農業面では、種もみ関連で中野地区と深く関わることで地域が発展してきました。

最近、特筆すべき点は、瑞泉寺を有する文化観光の特性を持つ南砺市井波地域や増山城を有する自然観光の特性を持つ庄東地域と行政や地域区分の垣根を越えた観光面はもちろん、各地域の特性を活かした連携活動が行われていることです。

平成16(2004)年11月の市町合併以降に行われている両地域の活動（一部）は次のとおりです。

N o	地域名	活動内容
1	庄東地域	・庄川峡観光協同組合に所属する旅館や道の駅庄川が越中三助焼窯元の器を観光資源として活用している。 ・雄神地区三谷自治会は、梅檀山地区で開催されるコスモスウォッチングに合わせ、除草作業などを実施している。 ・雄神地区は、鳥獣被害対策として電気柵を庄川上流の右岸から下流の高岡市境までの沿線地域と共に連携しながら設置している。 ・庄川小学校と庄東小学校で交流活動が行われている。 ・般若地区は、「新規転入世帯歓迎事業」として、転入者へ地元の農産物を贈呈している。 ・梅檀野地区は、旧梅檀野幼稚園園舎を活用したコミュニティ施設「せんだんのHILL」を整備し、地域住民が主体のまちづくりを進めている。 ・イトナミせんだんの藝芸術祭が権正寺で開催された。 ・古民家を利活用したゲストハウス「musbibibi」がクラウドファンディングを活用してできた。 ・空き家を利活用した古道具を販売する拠点「gurubibi」をオープンさせる。
2	南砺市井波地域	・南砺市観光協会井波支部と庄川峡観光協同組合が庄川地域と隣接する瑞泉寺を中心とする井波地域を記載した観光マップを作成している。 ・令和2(2020)年4月に昭和60(1985)年10月から市で運営されてきた市閑乗寺高原夢木香村は、閑乗寺観光開発株式会社へ譲渡され井波地域側の施設と一帯利用が可能となり、利用者が増加している。 ・井波と庄川両地域の協力体制の構築のため井波庄川自治会連合会を組織し、情報交換を実施している。 ・消防団は、合併前から交流があり井波、庄川の両方面隊が合同訓練を行っている。 ・東となみロータリークラブ（南砺市と砺波市を範囲とする組織）として、昭和54(1979)年から活動している。 ・(一社)ジソウラボが“人材輩出のまち井波をつくること”をビジョンに様々な活動をしパン屋、コーヒー屋、クラフトビール店等を次々と開業させてにぎわいを創出させている。 ・平成30(2018)年に文化庁が認定する日本遺産に指定されている。 ・令和7年(2025)に『コンデナスト・トラベラー』誌の「世界の静かな場所50選」に選ばれている。

第3章 問題の洗い出し

1 過去・現在から見える“問題”

地域内の動向・状況を過去から現在の数字で捉え、「見える化」することで問題を洗い出します。

(1) 人口から見える問題

日本全体の人口が減少しており、砺波市も同様に減少している。特に庄川地域は、その中でも減少率は高く、合併後の直近、平成18(2006)年は、7,018人だったが、令和3(2021)年には5,670人と1,348人減少しています。 [参照 P5 グラフ1](#)

ア 人口構成から見える事

(ア) 65歳以上の割合が増加【生産年齢人口の減】

平成28(2016)年時点で見るといわゆる、団塊の世代が65歳以上になったことにより、急激にその割合が高くなっています。全体の割合で見ると、生産活動を中心となって支える世代(生産年齢人口)が少なくなっており、生産活動や今後、これまでと同規模の地域活動が難しくなることを意味します。 [参照 P5 グラフ2](#)

(イ) 25～39歳の割合が小さい事

生産年齢人口の中でも、地域の活力となる学生ではない若者、25～39歳の世代が少ない。これは、コミュニティ活動やまつり等を実施することが既に困難になっていることを意味します。 [参照 P6 グラフ3](#)

(2) こども園、小中学校の園児・児童・生徒数から見えること

庄川地域では、どの世代も減少しているが、特に子どもの数の減少は著しい。

地域内の小学校及び中学校は、1校ずつであるので、地域の子どもの数は概ね学校の児童・生徒の数となります。

ア こども園の園児数から見えること

庄川地域の保育所の園児数が、概ね小中学校の児童・生徒数となるため、未来の学校の姿が予測できる。なお、平成27(2015)年から令和7(2025)年の減少率(10年間)は小学校54%減、中学校37%減、保育所41%減と著しく減少しています。 [参照 P9 グラフ6](#)

イ 小中学校のクラス数から見えること

令和5(2023)年現在から、中学校で1学年、小学校では全学年の半分以上が単数クラスとなっています。

「砺波市立学校のあり方検討委員会」でまとめられた提言書(令和3(2021)年度)では、“1学年、複数クラスが望ましい”という意見もあり、単数クラスが続く学校は、砺波市公共施設再編計画も進められることとなります。砺波市は中学校に関して減少している庄川中学校及び般若中学校は、庄西中学校と統合させる方向性を示しました。 [参照 P9 グラフ7](#)

(3) 空き家数から見えること

庄川地域の空き家は、100軒以上あり、今後も増加すると予測されます。空き家が増加すると防火、防犯面など近隣住民の第三者に不利益や損害を与える危険性だけでなく、環境悪化によるイメージダウンにも繋がることから周辺地域に迷惑がかかり“外部不経済”を生むことになります。[参照 P10 グラフ8、9](#)

(4) 地域運営組織から見える問題等

各組織共通する問題は、人口減少の状況を把握しているが、庄川地域全体で具体的な活動がされていない状況です。

各組織から見える（考えられる）問題を記載します。

N o	区 分	団 体	問 題 等
①	地縁的組織	自治振興会 自治会	地域の自治を担っているが、今まで実施できていたコミュニティ活動やまつり等伝統的行事が、単体組織では実施困難となる可能性がある。 なお、青島、種田地区は人口増加を推進する活動として出産祝い金事業を独自に実施している。
②	機能的組織	P T A、公民館、 消防団、N P O 団体など	高齢化が進み、新たなメンバー確保に苦慮している。社会情勢や人口等の減少数字から見える5、10年後を見据えた未来思考での活動を考える必要がある。 なお、砺波市となってから各地区で実施されてきた成人式は令和7(2025)から庄川地域全体で実施している。
③	経営的組織	商工会、民間の 組合など	「庄川峡観光協同組合」は、組織形態を変化させ庄川地域の強み（観光）を最大限に活かし、新たな挑戦を実施している。概ねの組織は、民間発想により問題意識が高く、課題を抽出し、未来思考の活動をしているが、「金屋ゆず生産組合」や「庄川木工挽物会」は、高齢化が進み、後継者確保が不安定なことから、未来を見据え、次世代に営みはもちろん技術を伝承する事業承継の取り組みが必要である。 また、地域の活力源である企業の多くが、人材不足（働き手不足）が深刻な状態であるため、地域ぐるみで支援することも考えるべきである。

第4章 今後の取組みについて

1 地域運営組織への周知等

現状を把握・共有するため地域カルテを配布し、組織ごとに“課題（やるべきこと）”を考えていく必要があります。

2 地域計画（まちづくり計画）の策定

洗い出した“問題”から“課題（やるべきこと）”を抽出し、今後の未来予測を踏まえた、実行計画（まちづくり計画（構想））を策定する必要があります。その場合、大きな方向性及び実行期間は、「砺波市総合計画」と連動したものとします。

（1）課題（やるべきこと）の抽出のポイント

ア 未来予測から考える

人口、自治会、保育所・小中学校、空き家等の姿を未来予測する。

イ 文化・歴史から考える

これまで培ってきた文化や歴史的なつながりなどがある場合は、地域間で連携する。

ウ 地域の特性から考える

令和4（2022）年4月に庄川地域が過疎法の「一部過疎」に指定されたことなど“強み”を把握し活かす。

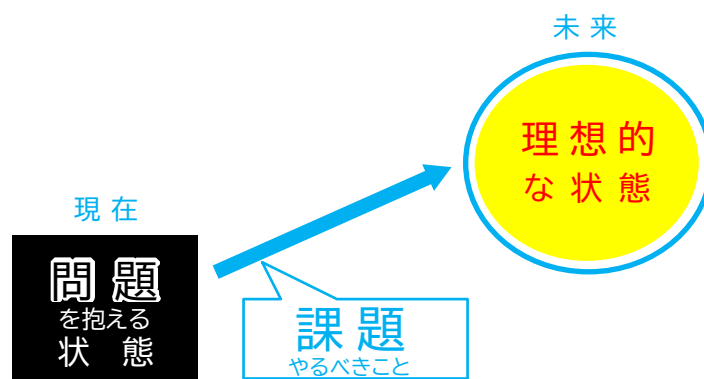


図3 課題抽出イメージ

（2）実行計画（まちづくり計画（構想））

持続可能な地域とするため庄川地域の“問題”と“強みと弱み”を論理的に分析し“課題（やるべきこと）”を抽出し具体的な計画を立案すべきです。

ア 基本的な考え

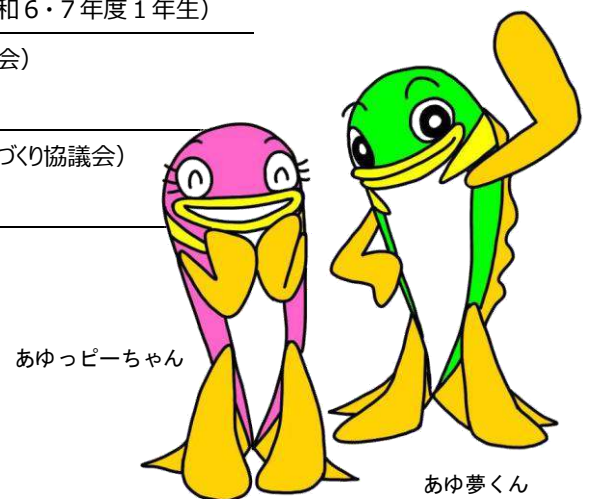
人口減少の予測を踏まえ、その規模に応じた活動の“適正化（連携や縮小）”を基本とする。

イ 計画期間

「砺波市総合計画」の計画期間に合わせる。

別冊 資料

No 1	各地区要望書（東山見、青島、雄神、種田地区自治振興会） 【地縁的組織】
No 2	各種団体の調査資料（庄川地域内の自治会・各種団体） 【地縁的組織・機能的組織】
No 3	まちづくりを語る会資料（砺波庄川まちづくり協議会） 【包括組織】
No 4	人口減少プログラム資料（砺波庄川まちづくり協議会） 【包括組織】
No 5	地域活性化ビジョン等資料（庄川峡観光協同組合） 【経営的組織】
No 6	各地区振興会の活性化の取組み資料（各地区自治振興会） 【地縁的組織】
No 7	広報しようがわ最終号_平成16(2004)年10月発行（庄川町） 〈平成16年当時 庄川地域の状況〉
No 8	砺波市・庄川町合併協議会資料（砺波市・庄川町合併協議会） 〈平成16年当時 庄川地域の状況〉
No 9	まちづくり情報新聞（砺波庄川まちづくり協議会） 【包括組織】
No10	交通まちづくり（砺波庄川まちづくり協議会、一般社団法人イドウラボ） 【包括組織】
No11	庄川中学生の活性化策（庄川中学校_令和5年度3年生、令和6・7年度1年生）
No12	庄川地域まちづくり調査研究市民報告会(砺波庄川まちづくり協議会) 【包括組織】
No13	持続可能な魅力ある田園地域創出実証実験事業(砺波庄川まちづくり協議会) 【包括組織】



庄川町商工会青年部作成キャラクター



地域カルテ 砺波市庄川地域版

令和 8 年 4 月発行

■ 発 行 砺波庄川まちづくり協議会
庄川町商工会
庄川峡観光協同組合

■ 編 集 砺波庄川まちづくり協議会 第 2 部会
(青島地区交流館内)
〒932-0314 砺波市庄川町青島 3374 番地 2